

平成29年度 研修報告書 第44号

# 元気な地域づくりをめざして

～青少年の地域活動に関する意識調査～



【大河原地区社会教育主事研究協議会】

## 発刊にあたって

今日、急速に進む少子高齢化、情報通信技術の発達などに見られる高度情報化、さらには社会・経済のグローバル化や環境問題の深刻化などにより社会全体が大きく変化し、また地域では、核家族化や地域コミュニティの希薄化が進行しているといわれています。

このような社会環境や価値観の変化による様々な問題を解決するため、人々が生涯を通じて学ぶ意欲を持ち、学ぶ機会があり、その学習成果を適切に生かすことができる「生涯学習社会」の実現が求められています。「生涯学習」とは、個々人が生きがいのある豊かな人生を送ることができるよう、必要な知識や技術を自発的意思に基づき、自分に適した手段や方法により、生涯を通じて行う学習活動を指します。また、学習活動を通して人と人とがつながり交流を深めながら、幸せと誇りが感じられる住みよい豊かな地域社会の構築に大きな役割を果たすことが期待されています。私たちは、生涯学習をコーディネートする立場として、あらためてそのあり方や可能性を探るとともに、常に時代を捉えた実践に努めていかなければならないと考えています。

さて、大河原地区社会教育主事研究協議会では、専門的な役割を担う社会教育主事が社会教育の推進、生涯学習の振興を図る上で、その時代（とき）の現状と課題を探り、方向性や解決策、新たな可能性などを見出すことを目的とし研修（調査・研究）を行っています。

今年度は、「地域活動の活性化」に焦点を置き、将来の地域の担い手となる「青少年の地域活動」をキーワードとして研修に取り組みました。先ず、青少年の地域活動に対する意識や活動状況を把握するため、中学校第2学年生徒を対象に実態調査を行いました。また、子供の意識は、保護者の意識と関連性があるのではないかと考え、保護者の方にも調査にご協力いただきました。調査結果を集約する中で、地域活動に対する子供、或いは保護者の様々な視点からの考えを知ることができ、深い学びとすることができました。先進地研修視察では、学校と地域が連携した地域活動の取組や、青少年を主体に取り組みされる地域活動など、先進的な実践事例を紹介いただき、これからの新たな事業展開へのヒントを得ることができました。一人一人が真摯に課題に向き合い、共に熱い討論を交わしながら研修に取り組めたことは、何よりの成果ではないでしょうか。それぞれの気持ちがこもった研修報告書をまとめ上げていただいたと思っております。次年度は、今年度の調査結果を踏まえた分析、さらには、その分析結果から一考察を行うとのことですので、今後、ますます深まりのある研修になることを期待しております。

最後になりますが、この研修報告書が一人でも多くの社会教育関係者にご一読いただき、これからの地域活動の活性化に向けた一つの道標として、また、公民館や生涯学習施設運営の一助としてご活用いただけることを切に願います。1年間ご指導をいただきました大河原教育事務所の皆様をはじめ、ご協力いただいた多くの皆様に感謝申し上げますとともに、研修に取り組まれた各市町等の社会教育主事の方々のご努力に対し、心から敬意を表します。これからも私たちが担うべき、果たすべき役割をしっかりと認識するとともに、お互いが切磋琢磨し合うことで、各々の市町等は勿論のこと、大河原管内における社会教育・生涯学習が益々発展することを祈念し、発刊のことばといたします。

平成30年3月

大河原地区社会教育主事研究協議会  
会長 村田町社会教育主事 鎌田 浩孝

## 発刊を祝して

宮城県大河原教育事務所 所長 鈴木 一史

各市町において生涯学習の振興・充実に向けて日々奮闘しておられます大河原地区社会教育主事研究協議会の皆様方には、その努力に敬意を表します。また、今年度も研修委員の皆様が一步ずつ地道な研究を続けられ、研修の成果を「研修報告書44号」として発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

さて、現在我が国では、都市化や核家族化・少子化等の進展により、地域の連帯感、人間関係の希薄化が進み、個人が主体的に地域や社会のために活動することが少なくなっていると言われております。個人と社会との関わりが薄らぐ中で、コミュニティ再生等、地域社会が直面する様々な課題に適切に対応することが難しくなっているように感じます。

このような社会状況の中、個人や団体が地域社会で行う奉仕活動等、互いに支え合い貢献する心に基づき、利潤追求を目的とせず、社会的課題の解決に進んで関係していく活動が現状を打破する上で大変重要になってきています。今求められていることは、私利にとられない大きな心と積極的な活動姿勢です。

今年度、研究に取り組んだ「青少年の地域活動への参画」は、このような現代的課題とその解決のために、社会教育主事としていかに取り組んで行く必要があるかをメンバー皆で熟考した結果のテーマであると思われまます。青少年の時期には、学校内外における奉仕活動・体験活動に積極的に参加し、多様な価値に触れる機会を多くして、豊かな人間性や社会性を培っていくことが必要であります。また、私たち大人は、子供たちのためにそのような機会の提供と充実を図り、社会に役立つ活動に主体的に取り組む姿勢を養っていく必要があります。次代を担う青少年に、社会に貢献する気持ちを育み成長させることは、まさに、混迷した現代社会の課題解決の一つの方策になると考えます。このような視点を持って行った今年度の研究は、私たちにも大きな示唆を与えてくれるものと楽しみにしております。

研究は2年計画で進めていると伺いました。今年度は実態を把握するための意識調査を主とし、次年度に、それを受けての詳細な分析と何らかの提案があるものと思います。どんな研究でも大切にしなければならないことはデータの集積です。調査の配付や集計は大変な作業であると思いますが、各市町で行った多数の調査結果が研究を裏付ける根拠になります。2年間という長いスパンで進める研究の利点を生かし、ダイナミックかつ緻密な研修が展開され、今後に向けての確かな提言となりますことを期待しております。

結びになりますが、本書の発刊にあたり御尽力なされた研修委員の皆様、そして貴協議会及び会員の皆様を支えていただいている各市町教育委員会の皆様に対し心から感謝を申し上げますとともに、管内の生涯学習の振興と貴協議会の一層の御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

# 目 次

発刊にあたって . . . . . 大河原地区社会教育主事研究協議会 会長 鎌田 浩孝

発刊を祝して . . . . . 宮城県大河原教育事務所 所長 鈴木 一史

◇ 研修テーマと経過について . . . . . 1

◇ 研修テーマ設定の背景 . . . . . 2

◇ アンケート調査の概要と結果について . . . . . 4

◇ 先進地研修視察報告 . . . . . 31

◇ まとめ . . . . . 39

◇ おわりに . . . . . 41



## 研修テーマと経過について

## 研修テーマと経過について

### 1 研修テーマ

元気な地域づくりをめざして ～青少年の地域活動に関する意識調査～

### 2 研修の目的

①大河原教育事務所管内の青少年に係わる地域活動について、その現状や課題を検証し、よりよい地域活動を探る。

②大河原教育事務所管内の各市町における地域活動の活性化に向けた手立てを考える。

### 3 研修の方法

大河原教育事務所管内の各市町における地域活動に関するアンケート調査を実施し、地域活動状況や意識を把握する。

### 4 研修日程と経過

月 日 (曜日)	会 議 名	会 場	内 容
4月28日 (金)	○社会教育主事研究協議会総会 ○研修委員会準備委員会	合同庁舎	平成28年度事業・会計決算報告 平成29年度事業・予算・役員改選等 研修委員会役員の選出
5月12日 (金)	○第1回研修委員会 ○第1回社会教育主事研究協議会	丸森町	研修テーマの検討・研修計画・研修内容 の検討等 話題提供 (村田町)
6月2日 (金)	○第2回研修委員会 ○第2回社会教育主事研究協議会	合同庁舎	研修の基本構想,先進地視察候補,座談会 の検討等
7月12日 (水)	○第3回研修委員会 ○第3回社会教育主事研究協議会	川崎町	研修内容の検討,先進地視察地の選定 話題提供 (丸森町)
8月31日 (木)	○第4回研修委員会	合同庁舎	研究内容の検討 先進地視察内容の検討
9月14日 (木)	○先進地研修視察 (利府町・七ヶ浜町・仙台市)	県内 3箇所	先進地の地域活動事業の状況調査等
10月10日 (火)	○第5回研修委員会 ○第4回社会教育主事研究協議会	大河原町	研修視察の反省,研究の推進,意識調査の 検討等 話題提供 (川崎町)
10月23日 (月)	○臨時研修委員会	合同庁舎	意識調査の検討
11月24日 (金)	○第6回研修委員会 ○第5回社会教育主事研究協議会	合同庁舎	研修報告書の検討等
12月5日 (火)	○第7回研修委員会	合同庁舎	研修報告書の検討等
1月25日 (木)	○第8回研修委員会 ○第6回社会教育主事研究協議会	角田市	研修のまとめ,研修報告書の検討等 話題提供 (大河原町)
2月14日 (水)	○第9回研修委員会	合同庁舎	研究報告書の校正等
3月2日 (金)	○第10回研修委員会 ○第7回社会教育主事研究協議会	合同庁舎	研修報告書の校正とまとめと反省等 話題提供 (角田市)



# 研修テーマ設定の背景

## ■研修テーマ設定の背景

### 社会教育の原点

「社会教育」とは、文部科学省の英訳によれば「Adult and Community Education」とされている。ここで着目することは「Community Education」の中身である。終戦直後に社会教育や社会教育行政が構想され、実践されてきたが、その中で、地域の人たち同士の関わり合いが社会教育の活動としてクローズアップされてきた。公民館活動などで人が集まり、お互いに交流しディスカッションや共同研究、共同作業を行う場とされてきたのである。この「教え合ったり学び合ったりする」ことによって様々な知見を獲得したり新たな価値を発見したりする学びのスタイルは「相互教育（相互学習）」といわれるが、それこそが戦後社会教育の原点であり、地域の絆が壊れつつある現代にこそ、時代の流れにふさわしいものとして再構築することが望まれている。

### 地域を取り巻く課題

1980年代以降、世間では「価値観の多様化」といわれるようになり、地域の人たちが生活課題を共有し、その解決を「学びのテーマ」とすることが困難となってきた。かつては多くの人々に内在していた「地域を守り伝える」「地域を良くする」意識や「地域で地域の人たちと過ごす」生活が希薄化し、共有し得る生活課題の範囲が狭まってきたのである。近年では、地域に関わらない、地域や周囲に無関心な人々が増えてきた。そうした状況は「無縁社会」といわれるほど深刻化している。

しかし、未曾有の災害となった東日本大震災以後、ここ数年の変化として、社会の中で無縁になることの危機感から、人々が「つながる」「つなぐ」ことの必要性を感じ始めるとともに、地域社会への参加意義が一段と高まっている。災害時対応に必要となるキーワードとして、「自助」「共助」「公助」があげられるが、それを担う個人、団体、行政等が互いに連携し一体とならなければ、互いの持つ力を十分に発揮することができないと考えられたのである。

人はどんなに物が豊かでも、一人で幸せになることはできない。人は、自分と誰かが「つながっている」ことによって幸せを実感できるのではないだろうか。共通のテーマで話ができるような仲間がいれば、互いに認め合い、評価し合うこともできる。社会教育の基盤は、身近な関わりの中にある「学び」にあるといえる。人と人との関わることのできる「開かれた場」を地域の中に創っていくことが、社会教育としての大きな課題でもある。

### 地域と社会教育のかかわり

地域社会ではどのような内容でつながることが多いかと言えば、自分（たち）のやりたいことで集う場合や地域において解決したい課題がある場合があげられる。こうした地域活動のなかで、つながりを持つためには、他者の「志」に共感するとともに、良好な関係を築くコミュニケーション能力、他者の考えを許容する姿勢や寛容さも必須である。このような土壌で信頼感を育み、何事にも積極的に取り組

もうとするポジティブな集団へと変容し、他者との交流を重ね、新たな「学び」へとつながる、このようなサイクルが地域活動として社会に定着することが望ましいと考えられる。

## 地域活動の活性化に向けて

地域活動を活性化するためには、中心的役割を担うコーディネーター（リーダー）となる人材育成が必要であり、こうした人づくりには、体験的活動から得られる教育的効果は高いと考えられている。学校教育では「総合的な学習の時間」や「特別活動」など、その有効性を生かす活動を行っている。体験活動として、「勤労体験・ものづくり・生活体験・職場体験・自然体験・集団体験・ボランティア活動・IT活動・祭りや年中行事・まちづくり」などがある。また、そのような活動の中では、他の人とのコミュニケーションが大切な要素となる。人の縁には、「血縁・地縁・社縁（職縁）・知縁・学縁」などがあるが、このような様々な縁で集まった人たちと行う体験活動には学校教育では得られない貴重な価値がある。学校教育のなかでは、ボランティア学習など社会貢献や地域活動に対する意識を高める教育活動が多様な形態で行われているものの、実際の青少年を取り巻く状況を見ると、少なくとも現時点では地域活動に対する意識が総じて強いとはいえないのではないかと考えられる。しかし、現代の社会において、社会や個人の意識向上に対して地域活動が及ぼす影響は決して小さいものではない。とくにこれから社会の中心的な存在として活躍しようという時期にあたる青少年の人間形成に関しては重要であると考えられる。

そこで、今回の大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会の研修テーマとして、「地域活動の活性化」を取り上げることとした。地域社会の次代を担う青少年の地域活動への参加に着目し、地域活動が社会と個人に及ぼす関係性を考察する。研修は2ヶ年計画とし、1年目に管内の中学校第2学年生徒とその保護者を対象とした地域活動に対する意識調査を実施し、地域活動に対する現状の把握を行う。2年目に調査結果を基とした青少年の意識と地域活動の関係性及び、課題解決に向けた方策を探ることとして研修を進めていくこととする。

# アンケート調査の概要と結果について

# 「青少年の地域活動に関する意識調査」

## アンケート調査の概要

### 1. 調査目的

近年、地域や周囲に無関心な人々が増え、無縁社会といわれるほど深刻化している。しかし、東日本大震災以後、人々が「つなぐ」「つながる」ことの必要性を感じ始めるとともに、地域活動への参加意識が一段と高まり、活性化するために中心的役割を担う人材育成が必要視される。特にこれから社会の中心として活躍しようという時期にあたる青少年の人間形成に関しては重要であると考えられる。

そこで、研修テーマとして「地域活動の活性化」を取り上げ、次世代を担う青少年に着目し、これからの地域の活性化に及ぼす関係性を考察するため、管内の中学校第2学年生徒とその保護者を対象とした地域活動に対する意識調査を実施する。

### 2. 調査の時期

平成29年11月7日(火)～11月29日(水)

### 3. 調査の対象

大河原教育事務所管内の中学校第2学年生徒及びその保護者

(白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町)

### 4. 調査の方法

調査用紙 生徒用・保護者用を作成

調査方法 各市町の中学校第2学年生徒とその保護者において、無記名で調査。

### 5. 標本数

生徒 1,548

保護者 1,548

### 6. 有効回答数

生徒 1,339 (86.5%)

保護者 1,129 (72.9%)

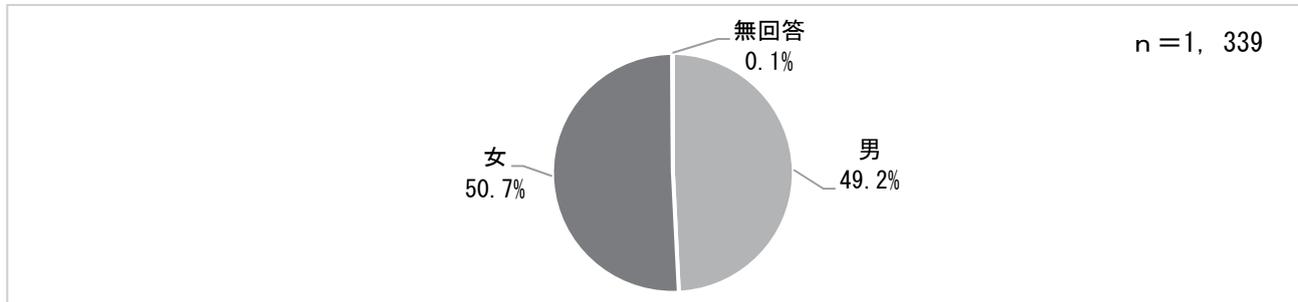
### 7. その他

各設問の数値などは、回答のあったもののみを有効とするため、設問ごとのサンプル数は異なる。

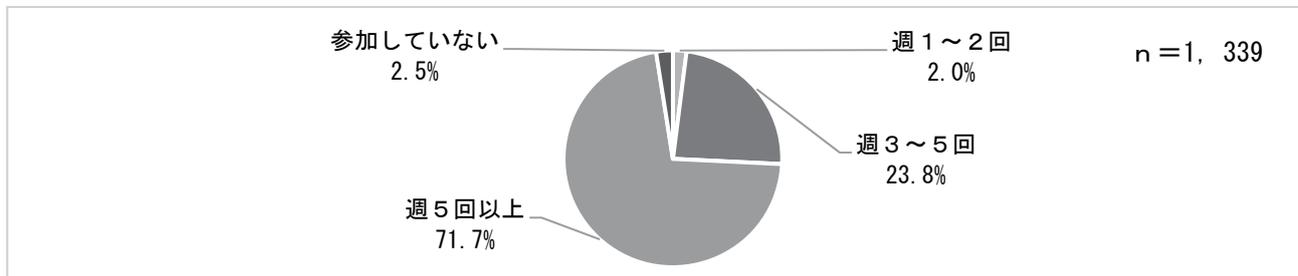
## アンケート調査の結果（生徒用）

### 問1 自身のことについて

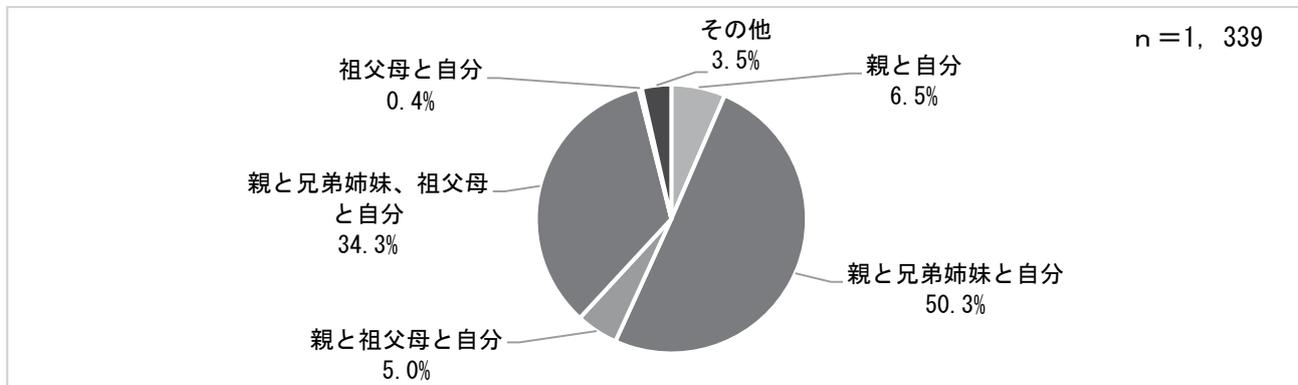
#### （1）性別



#### （2）部活動の頻度



#### （3）家族構成

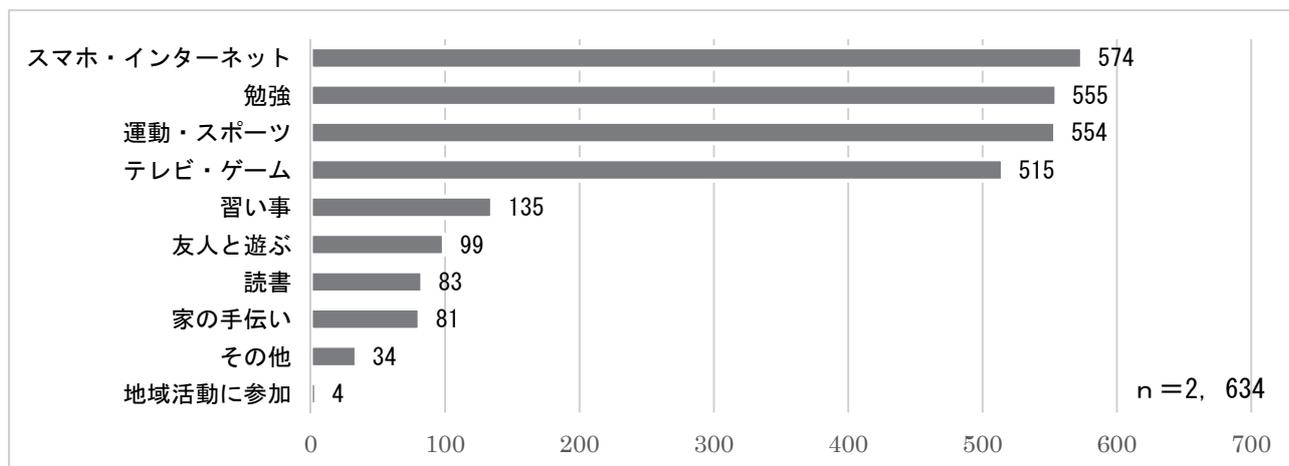


#### 【その他】

- ・親と兄弟姉妹，祖父母と曾祖父母と自分
- ・親と兄弟姉妹，曾祖母と自分
- ・親と兄弟姉妹，祖母と自分
- ・親と兄弟姉妹，祖父母と叔父と自分
- ・親と兄弟姉妹，叔母と自分
- ・親と祖母と自分
- ・親と祖父，叔父と叔母と自分
- ・叔父と祖母と自分
- ・母と兄弟姉妹，祖父母と曾祖父母と自分
- ・親と兄弟姉妹，祖父母と叔母と自分
- ・親と兄弟姉妹，祖父と曾祖母と自分
- ・親と兄弟姉妹，祖父母と曾祖母と自分
- ・親と兄弟姉妹，祖父母と兄家族と自分
- ・親と祖父母，曾祖母と自分
- ・親と祖母，叔父と自分
- ・母と叔母，祖母と自分
- ・祖父母と兄弟姉妹と自分

## 問2 余暇時間の使い方について

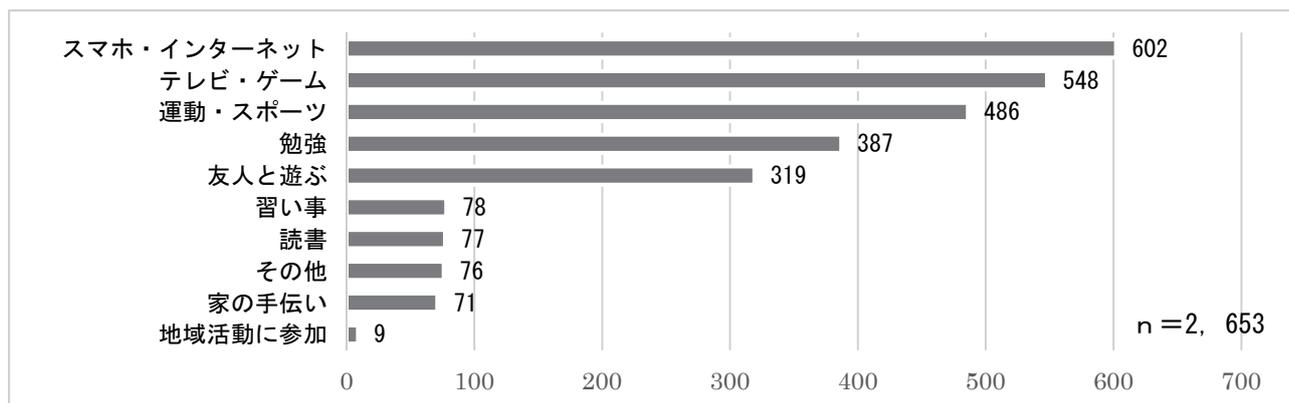
### (1) 平日の放課後の使い方について多いもの(2つまで)



#### 【その他】

- ・部活(同9) ・寝る(同5) ・絵を描く(同3) ・楽器演奏(同2) ・音楽鑑賞(同3)
- ・友達と話す

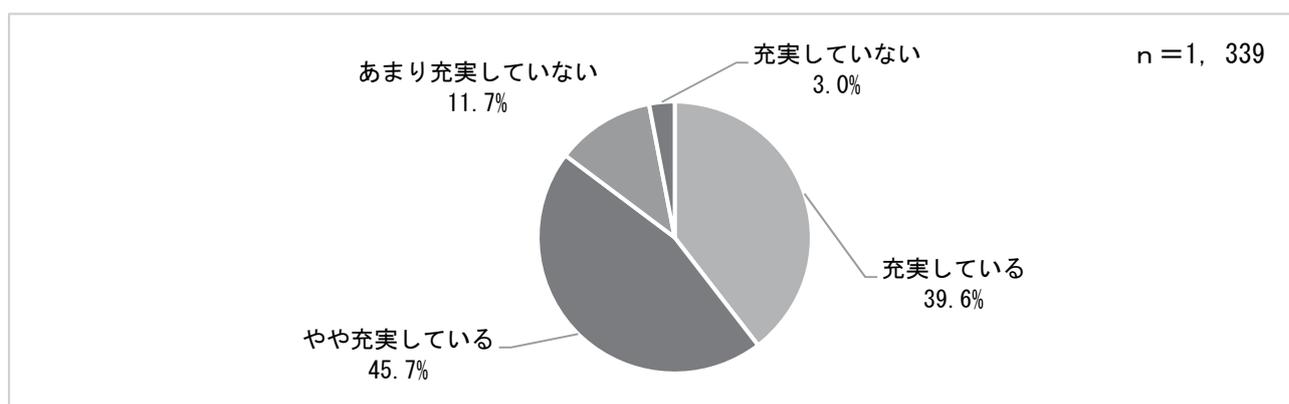
### (2) 休日の使い方について多いもの(2つまで)



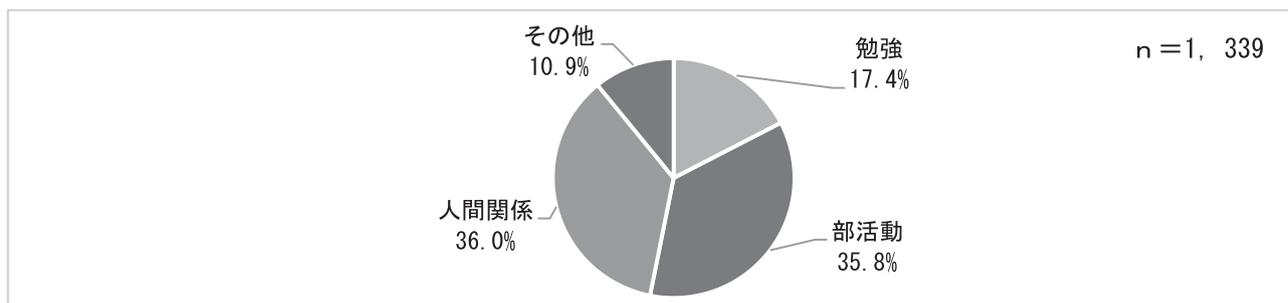
#### 【その他】

- ・外出(同20) ・部活(同13) ・寝る(同7) ・趣味(同4) ・絵を描く(同3)
- ・音楽鑑賞(同3) ・きょうだいの面倒を見る(同2) ・楽器演奏

### (3) 生活は充実しているか



#### (4) (3) の回答を選んだ理由



##### 【その他】

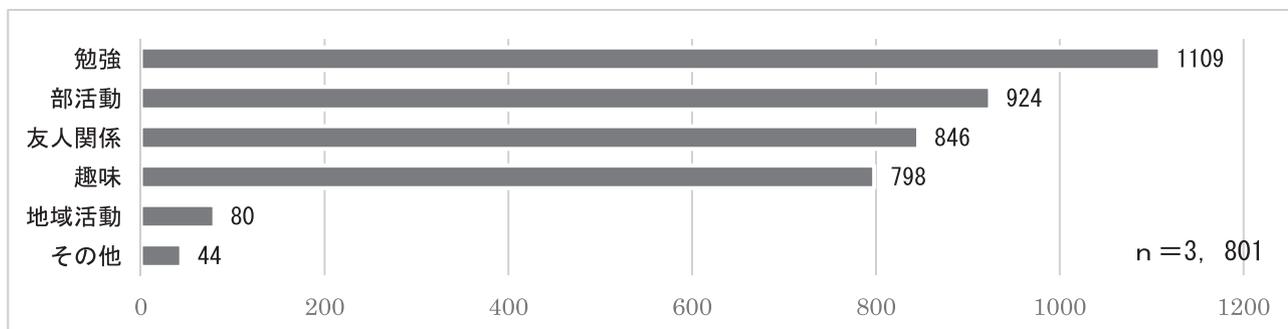
○充実している・やや充実している理由

- ・すべて (同5) ・習い事 (同3) ・趣味 (同3) ・ゲーム (同2)
- ・学校が楽しいから (同2) ・休日 ・インターネット ・読書 ・野球 ・遊び ・音楽鑑賞
- ・ネット環境 ・環境 ・私生活 ・いろいろなことが楽しいから
- ・趣味と学校の両立ができていいるから ・家族と過ごせているから
- ・勉強, 人間関係ともども良いから。 ・一人でいる時が充実している

○充実していない・やや充実していない理由

- ・生活リズム (同2) ・そう思うから ・何もないから ・なんとなく ・つまらない
- ・趣味がない ・家のこと ・何とも思わない ・やりたいことがない ・全くうまくいかない
- ・人間関係と家のこと ・楽しいと思うことが見つけられない ・選択肢全部 (勉強・部活・人間関係)

#### (5) 今後、特に充実させたいことを (3つまで)

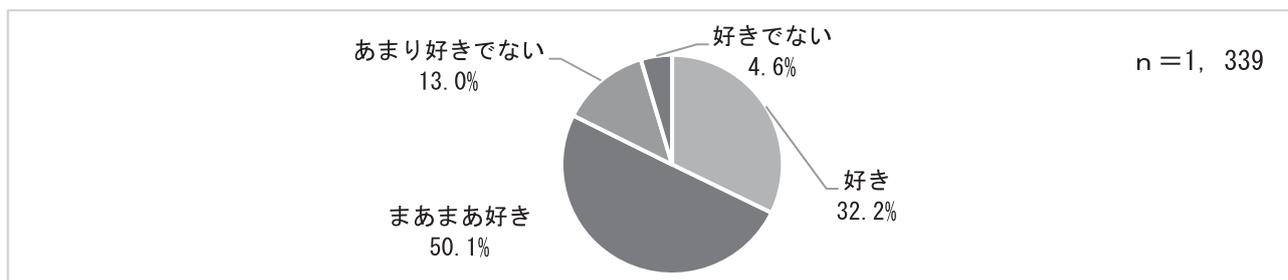


##### 【その他】

- ・習い事 (同4) ・野球 (同2) ・人間関係 (同2) ・ゲーム (同2) ・自分の時間 ・生徒会活動
- ・音楽鑑賞 ・家族との団らん ・サッカークラブ ・遊び ・生活 ・好きなアーティストのこと

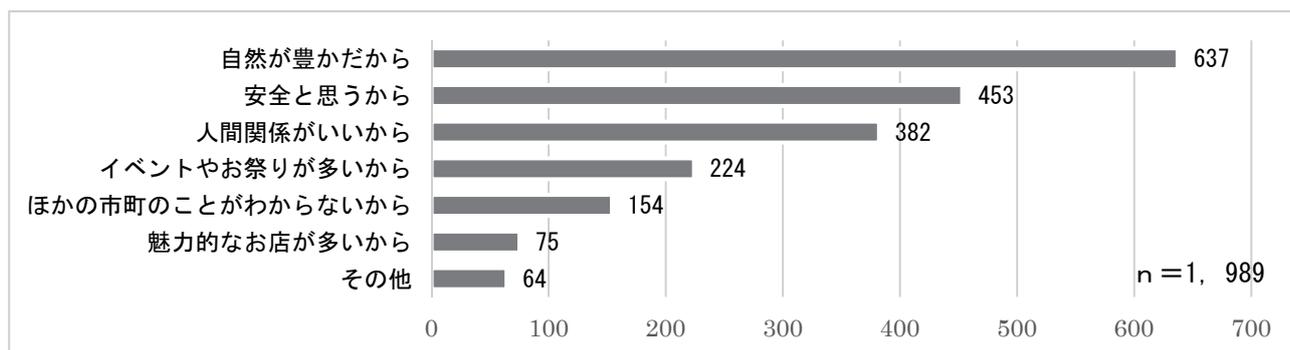
### 問3 地域への関心について

#### (1) 自分の住む地域が好きか



【質問（２）は（１）で「好き」「まあまあ好き」と答えた方のみ】

（２）好き，まあまあ好きな理由（２つまで）

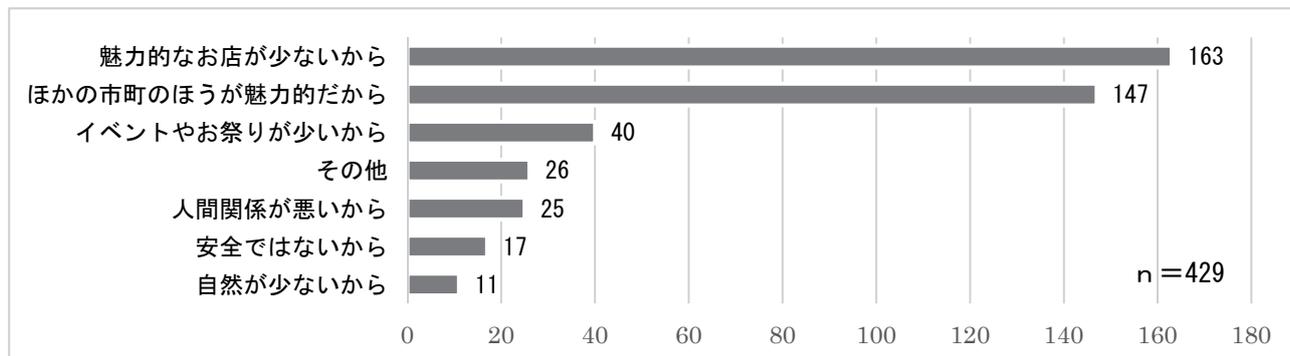


【その他】

- ・お出かけ（同２） ・平和（同２） ・静かだから（同２） ・住み慣れたから（同２）
- ・なんとなく ・人が少ないから ・心地いい ・駅がある ・普通だから ・何もないから
- ・昔から住んでいるから ・町の景色が好きだから ・自然災害が少ないから ・住みやすい気候だから
- ・人の数がちょうどいい ・隣の家との距離が長いから ・都会と違って人が少ない
- ・都会すぎない，田舎過ぎないところ。 ・友達がいる ・きれいな景色を見られる場所が多いから

【質問（３）は（１）で「あまり好きでない」「好きでない」と答えた方のみ】

（３）好きでない，あまり好きでない理由（２つまで）

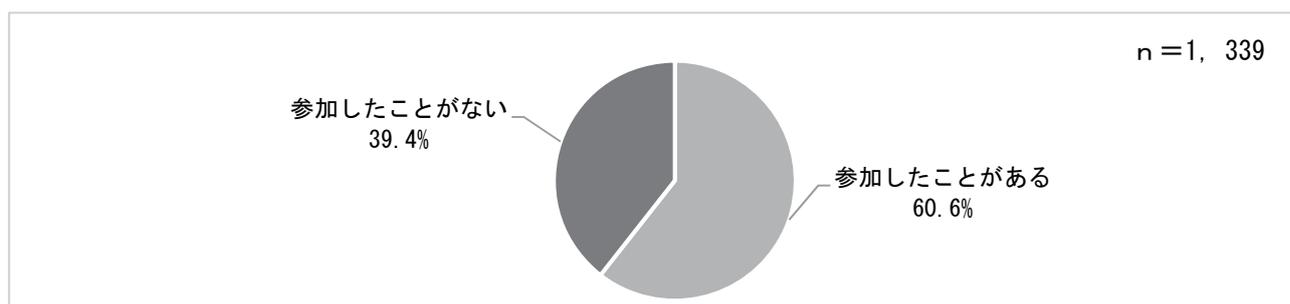


【その他】

- ・教育 ・田舎 ・なんとなく ・どうでもよい ・することがない
- ・他の市町と比べてあまり発展していない

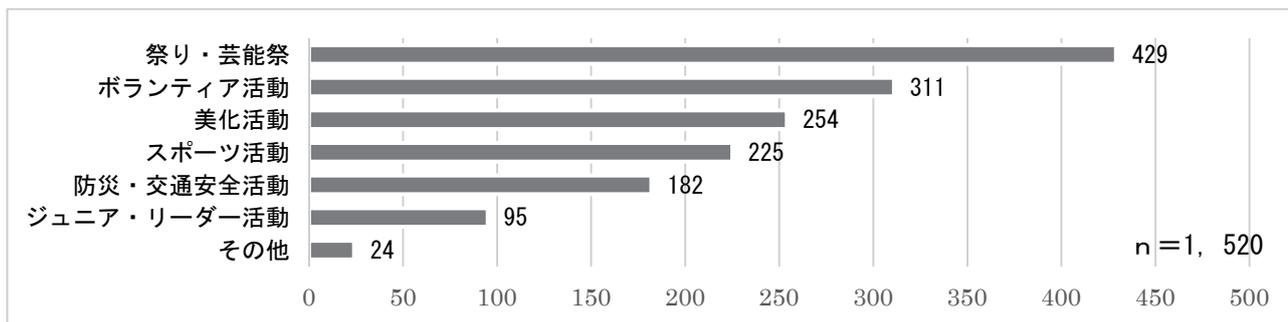
問４ 地域活動への関わりや考えについて

（１）中学校入学後，地域活動に参加したことがあるか



【質問（２），（３），（４）は（１）で「参加したことがある」と答えた方のみ】

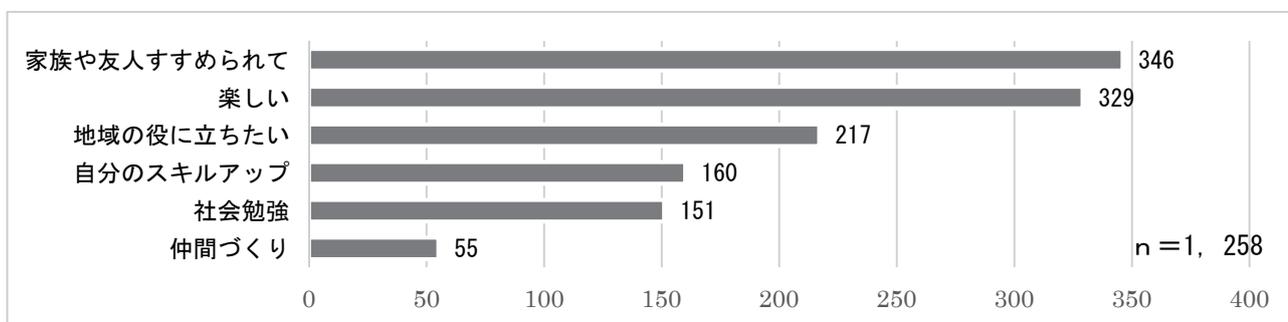
（２）中学校入学後，参加したことがある地域活動（あてはまるもの全て）



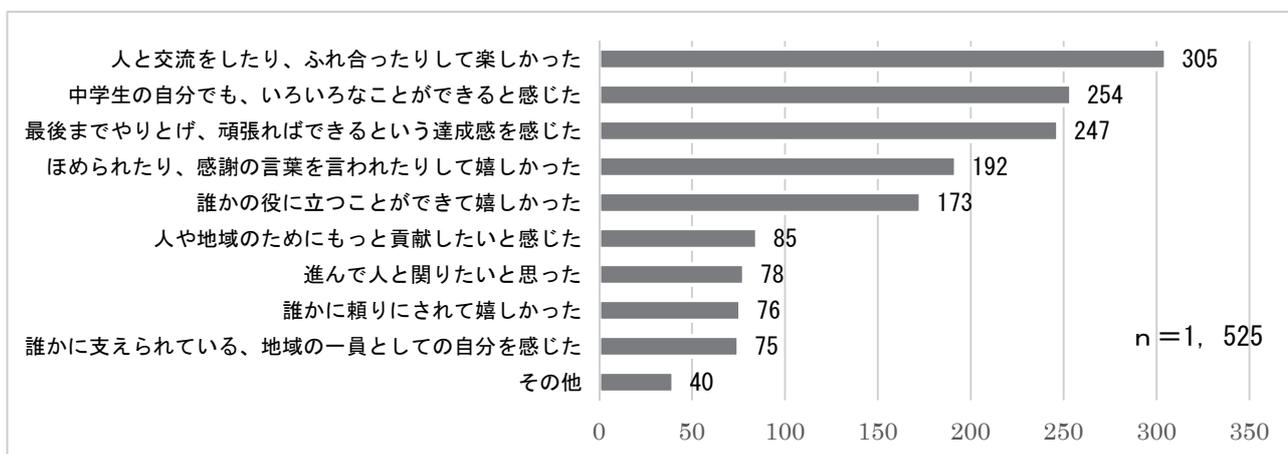
【その他】

- ・地区民運動会（同４）
- ・廃品回収（同２）
- ・吹奏楽部での演奏
- ・育成会

（３）地域活動に参加した理由（２つまで）



（４）地域活動に参加してどのようなことを経験したり感じたりしたか（２つまで）

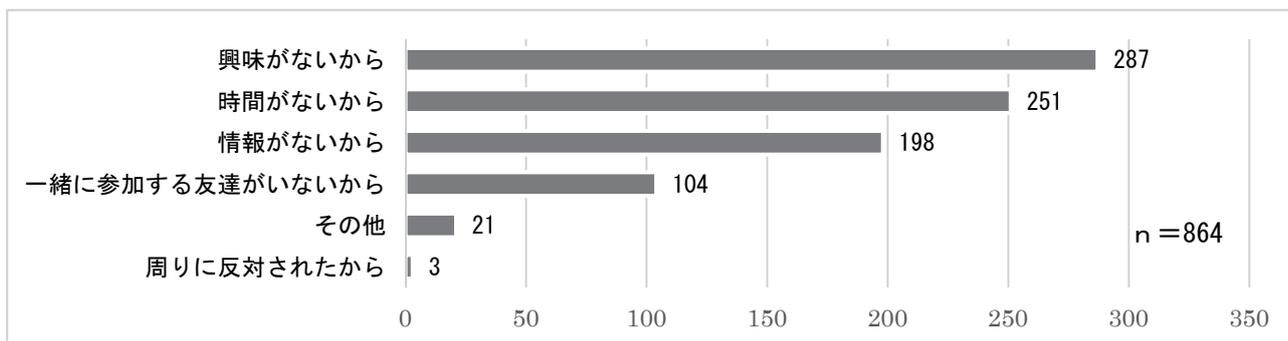


【その他】

- ・学校行事だからやった（同７）
- ・強制だった（同４）
- ・人数不足
- ・委員会活動
- ・大変だった
- ・なんとなく
- ・いかないとお金を取られる
- ・あまりおもしろくない
- ・特に何も感じていない
- ・やらなくてはいけないから
- ・部活動で出ることになった
- ・友達と参加して楽しかった
- ・楽しい事ほど、みんなでやったほうがいい。
- ・いろいろな人がいると実感し，楽しめた。
- ・地域で毎年やらなければいけない毎年の流れだから
- ・楽しくなく，自分の身になるとは思えないので参加したくない。
- ・自分たちだからこそ見つけられるものがあったかのように感じる

【質問（５），（６）は（１）で「参加したことがない」と答えた方のみ】

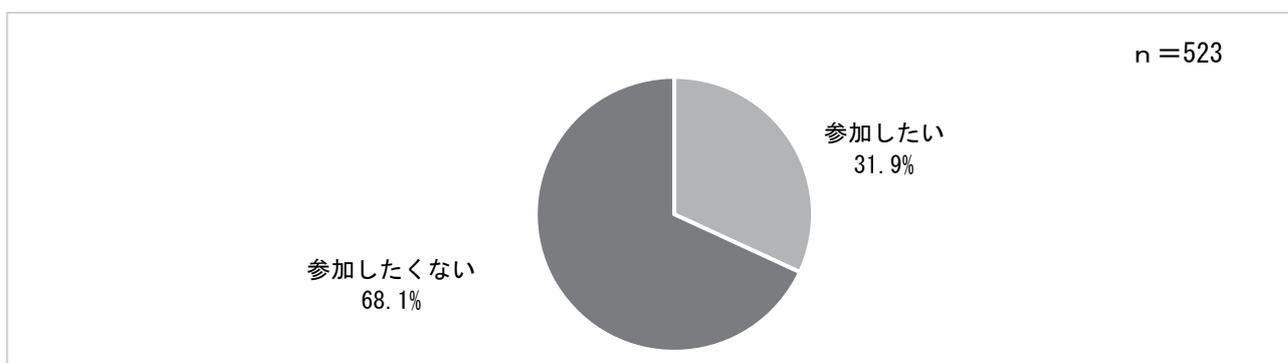
（５）地域活動に参加していない理由（２つまで）



【その他】

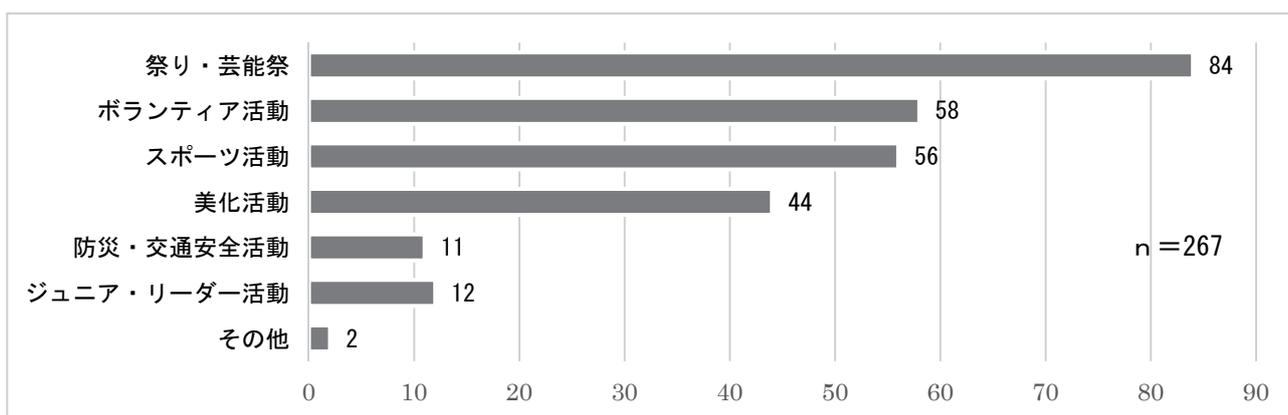
・なんとなく ・めんどうだから ・どうでもよい ・つまんない ・あんまり地域活動がない

（６）今後、地域活動に参加したいか。



【質問（７）は（６）で「参加したい」と答えた方のみ】

（７）どのような活動に参加したいか（２つまで）



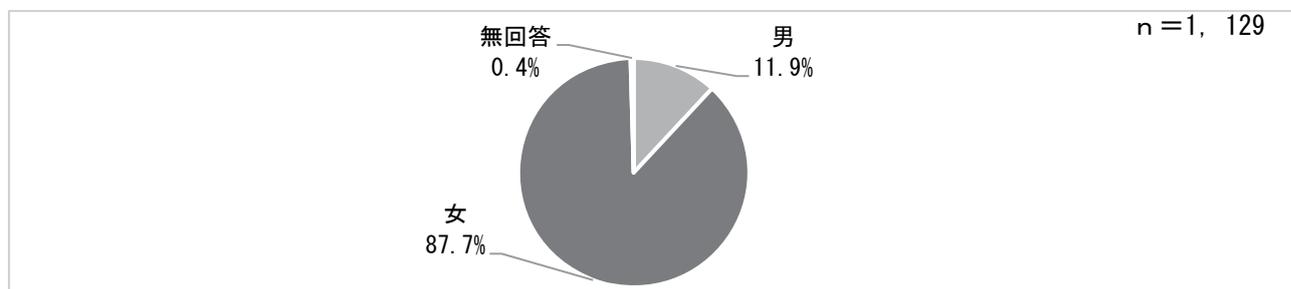
## 問5 地域活動についての意見など

- ・もっと楽しいイベントや行事を増やしてほしい（同14）
- ・もっと施設を充実してほしい（同4）
- ・もっとまちをきれいにしたい（同3）
- ・もっと中学生向けのイベントや行事を増やしてほしい（同3）
- ・時間がない
- ・面倒くさい
- ・幅広く活動してほしい
- ・今後も地域活動に積極的に参加したい
- ・地域の活動をなくしてほしい
- ・楽しい企画があれば行きたい
- ・もっと交流を深める場所を作ってほしい
- ・田植え体験や稲刈りなどの農業体験がしたい
- ・地域の役に立てるような事を今後もしていきたい
- ・地域活動をもっと活発にしたほうがよい
- ・市民全員が半年に1回、道や家の周りを掃除できればいい。
- ・私は伝承芸能をしているが、人がいなくて困っている。
- ・もっと地域の子供たちにジュニア・リーダーのことを知ってほしい
- ・毎回同じ内容ではなく少しでも変えたらいいと思う
- ・もっと地域活動に参加したいので、そのお知らせなどがほしい。
- ・もう少し町の人たちと関わることがあるのではないか
- ・子供が安全に楽しくするイベントがあるならば今後ともあったほうがいい
- ・地域活動では、地域の人たちとの関わりもでき、中学生が学べることがたくさんある。
- ・お祭りなどはとても楽しい。私自身もボランティア活動をしていきたい。
- ・自分はジュニア・リーダーをやっているので、普段の生活でもちゃんとしていきたい。
- ・スポーツ活動をもっと増やし、地域の人々をもっと交流できる場をつくりたい。
- ・もっと地域が活性化するような方法を考えてほしい。年々地区の子供が減ってきているので。
- ・中学校入学後、スポーツ活動にしか参加できていないので、他の活動にも参加してみたい。
- ・地域活動の数は多いものの小規模すぎる。少なくてもいいからもっと大規模にしてほしい。
- ・毎月、何かスポーツ関係などのイベントをしたらいいと思う。スポーツでなくても勉強などいろいろな活動をしたらよいと思う。
- ・私はジュニア・リーダーをしているが、他の地域と交流を深め、子供から大人、高齢者の方と触れ合っていきたい（学校からボランティアで老人ホームに行くなど）
- ・ボランティアなどの募集の情報をもっと出してほしい。いろいろな祭りなどでも中学生のボランティア募集をしてほしい。友達と気軽に参加できる活動がほしい。
- ・もっと交流を増やすために、祝賀会を大人だけでなく子供もやってみれば子供同士の交流も深まると思う。
- ・イベントなどは色々な場所で行うと良いと思う。町の色々な面をたくさんの人に知ってもらえると思う。
- ・地元でイベントを行う際、大人の数も限られており、準備が大変そうだった。近く of 大学生から中学生まで、若者を呼び寄せて運営に関わらせるのもよいのではないか。
- ・地域の活動はあまり自分の生活では身近な事として感じられることは、あまりなかったが、中学生になったら身近に感じる事ができた。これからも、自分からこの地域をもっと良くできるように頑張りたい。

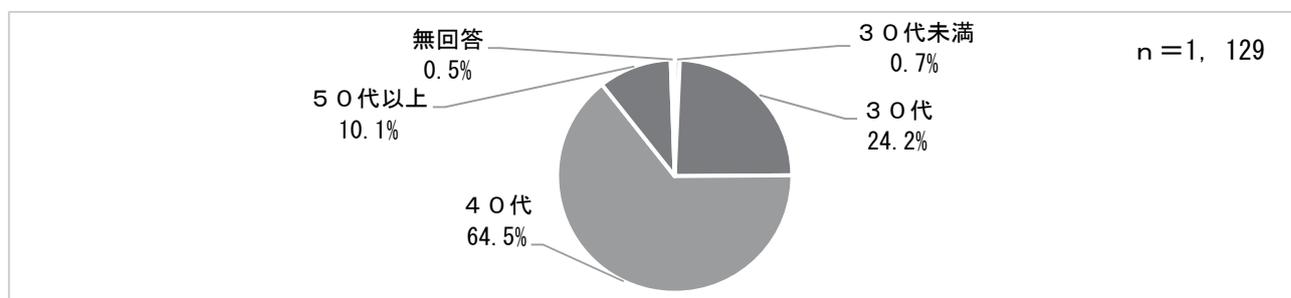
## アンケート調査の結果（保護者用）

### 問1 自身のことについて

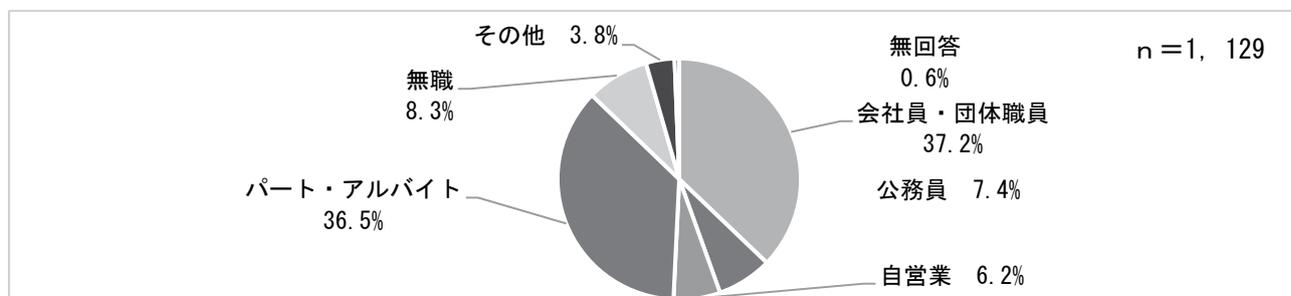
#### （1）性別



#### （2）年代



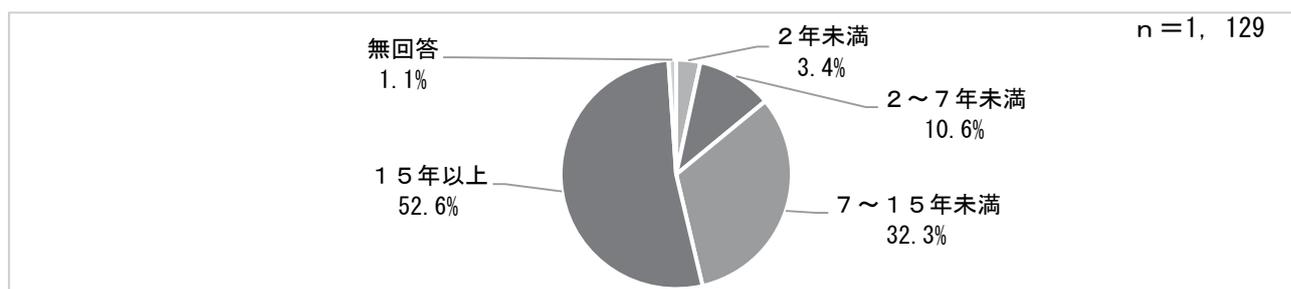
#### （3）職種



#### 【その他】

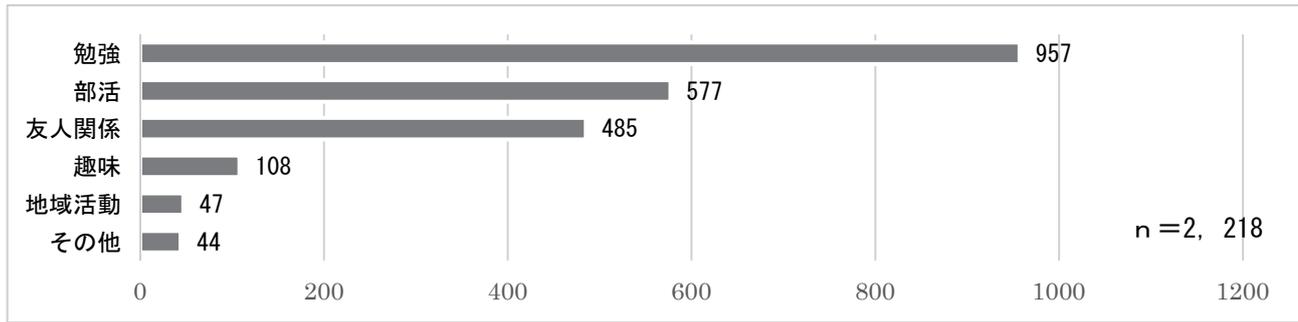
・主婦（同9） ・サービス業 ・農業 ・契約社員 ・派遣社員 ・非常勤職員

#### （4）現在住んでいる地域の在住年数



## 問2 子育てに対する考え方について

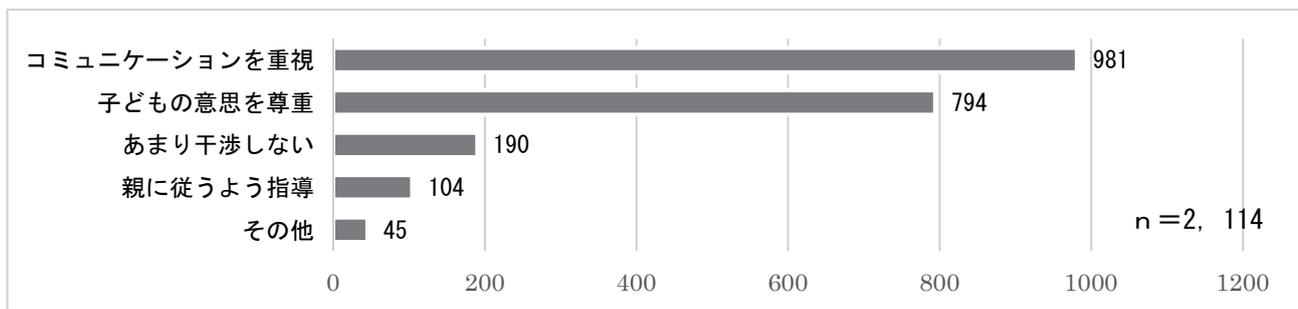
### (1) 自分の子供にはどんなことに力を入れてほしいか (2つまで)



#### 【その他】

- ・家事手伝い (同3) ・習い事 (同3) ・友人 ・読書 ・野球 ・人格 ・生活
- ・何事にも目標を持つこと ・将来のビジョン ・体力づくり, 管理 ・全て (選択肢全て)
- ・その時 (時期) に打ち込んでいるもの ・時間, 提出物の提出。 ・憧れや夢を実践, 手に入れる。
- ・学校生活を楽しく過ごす ・ダイエット

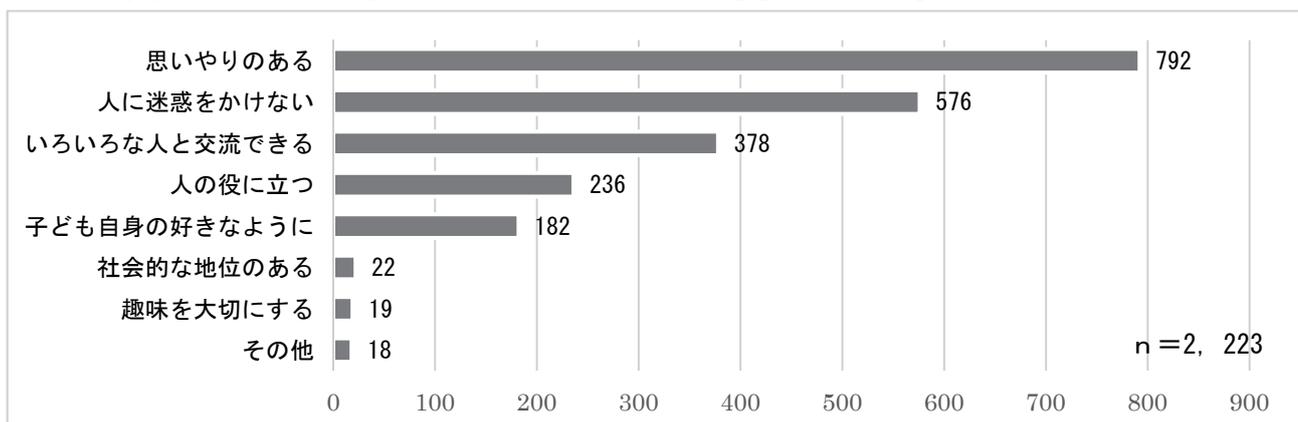
### (2) 自分の子供との接し方で意識していること (2つまで)



#### 【その他】

- ・子供の自立をサポート (同3) ・顔 (表情) を見て話を聞いてあげる
- ・生活能力の向上 ・お手伝いをさせる ・子供を大切に思っていることが伝わるように伝える
- ・時々, 学習の復習や自学の確認等。 ・互いの言い分をはっきりさせる ・相手のことを考えて行動
- ・子供の意思を尊重, あまり干渉しない (2つ回答) ・自己肯定感が向上するように声掛けする
- ・意思を尊重しつつ, 親の意見をはっきり伝える (善・悪の方向性など) ・健康の変化に気付いて対応

### (3) 自分の子供にどのように育てほしいと考えるか (2つまで)

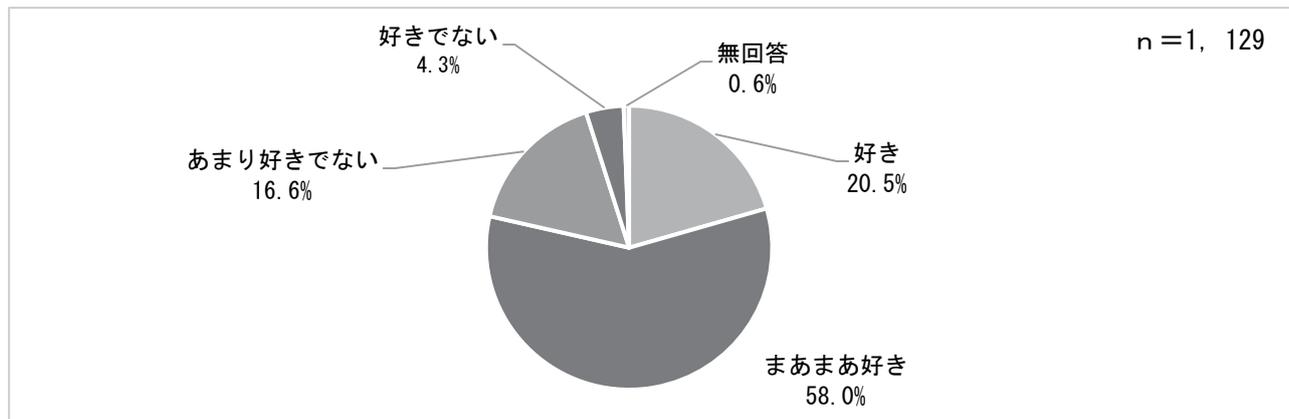


【その他】

- ・自立してほしい（同2） ・全て（選択肢すべて） ・自立，自律できる ・自信を持つ
- ・充実した時間を過ごす事の出来る人 ・自信を持って自分を好きでいられるまっすぐな人間
- ・人の役に立ち，成長し続ける人。

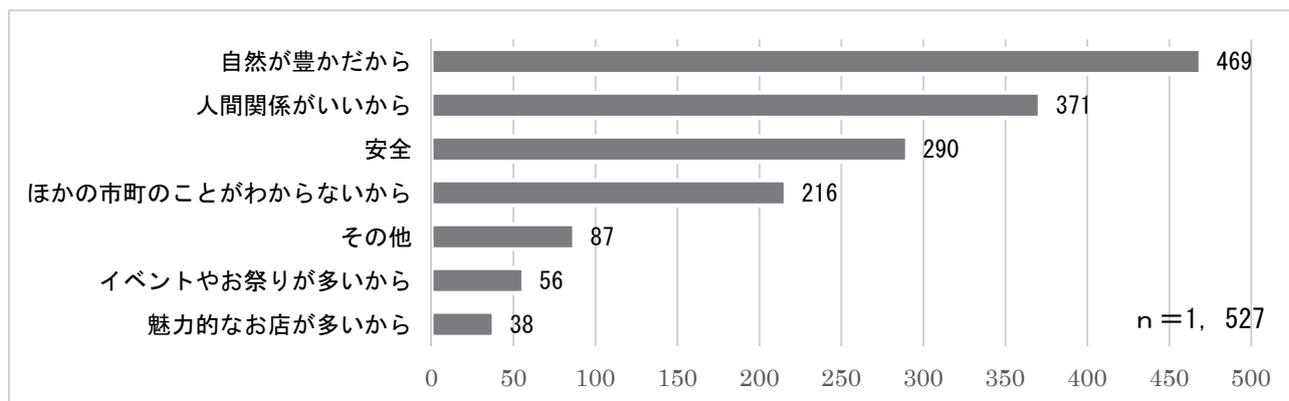
問3 地域への関心について

(1) 自分の住む地域が好きか



【質問(2)は(1)で「好き」「まあまあ好き」と答えた方のみ】

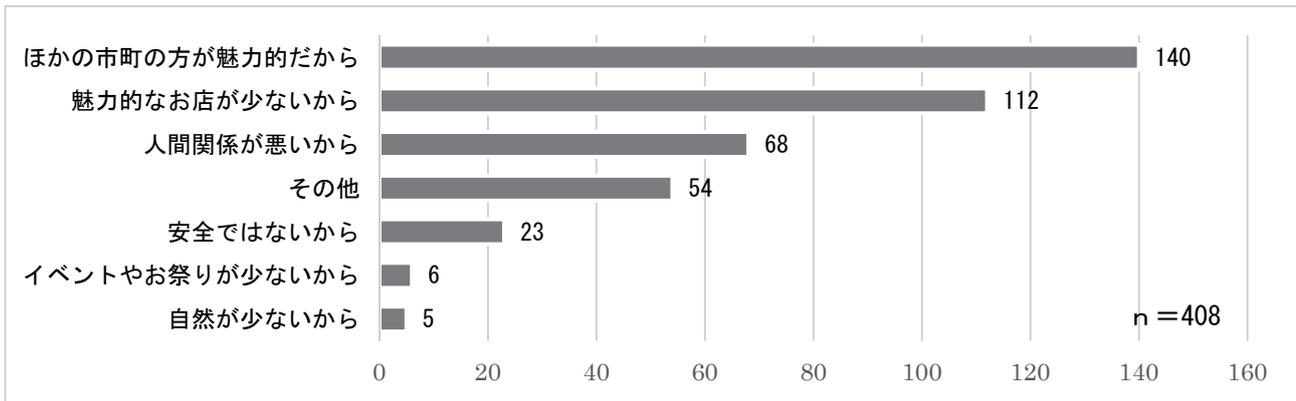
(2) 好き，まあまあ好きな理由(2つまで)



【その他】

- ・交通の便がいいから（同7） ・利便性がある（同5） ・生まれ育ったところだから（同3）
- ・静かでのんびりしている（同2） ・住みやすいから（同3）
- ・慣れ ・両親が居住 ・災害に強い町 ・住民税が安い，生活環境が良い。
- ・こんなものだと思うから ・仙台大のスポーツイベントが多い
- ・角田市民だから ・長年住んでいるから ・子供に対して色々優遇されている
- ・嫁つぎ先がここだった ・他の市町にいったことがない
- ・適度に田舎で，田舎の割には交通の便が良い。 ・生活がしやすい
- ・自分の願う生活水準をある程度満たしているから

【質問（3）は（1）で「あまり好きでない」「好きでない」と答えた方のみ】  
 （3）好きでない、あまり好きでない理由（2つまで）

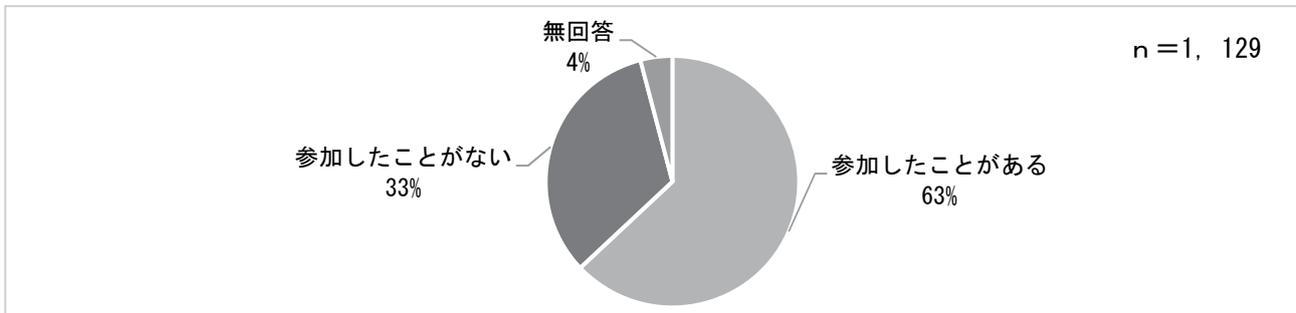


【その他】

- ・交通の便が悪い（同11） ・生活が不便だから（同4） ・閉鎖的だから（同2）
- ・馴染めていない ・子育て環境が良くない ・子育て世代には住みにくい ・のんびりしすぎ
- ・地域によって学校環境に差があり、生徒の様子が違う。 ・片親に対する配慮
- ・子供にとって、よそから来た者にとって不便かつ魅力がないから。
- ・人間関係が悪いから、安全ではないから、ほかの市町の方が魅力的だから（3つ回答）

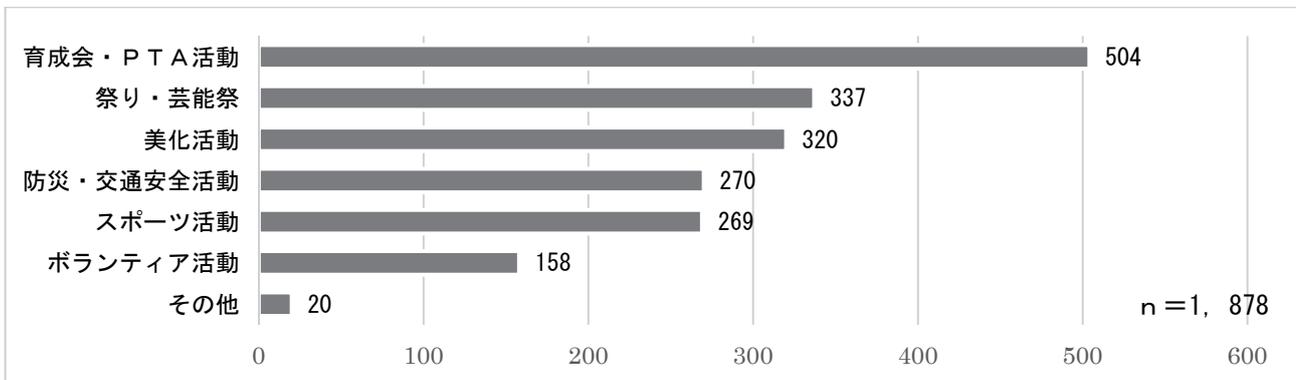
#### 問4 地域活動への関わりや考えについて

（1）最近、地域活動に参加したことがあるか



【質問（2）、（3）は（1）で「参加したことがある」と答えた方のみ】

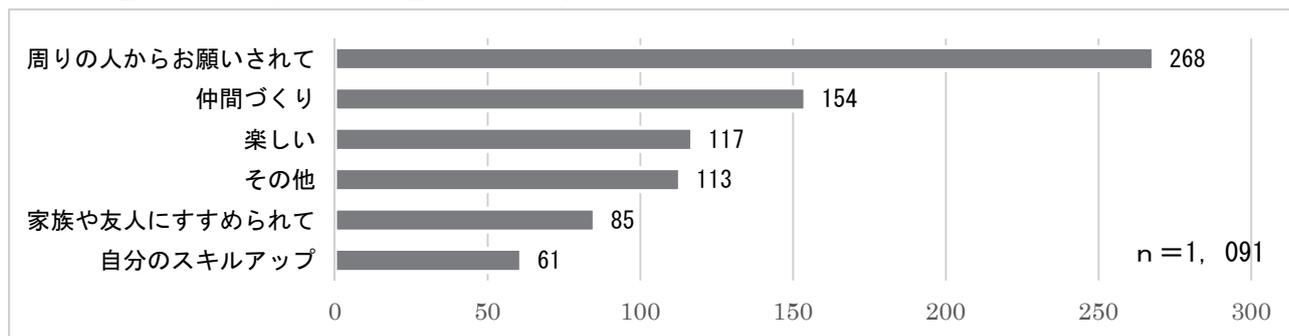
（2）最近、参加したことがある地域活動（あてはまるもの全て）



【その他】

- ・役職員として参加（同3） ・部落の活動 ・親子会行事 ・地区活動 ・町内会 ・消防団、行政区活動。

### (3) 地域活動に参加した理由 (2つまで)

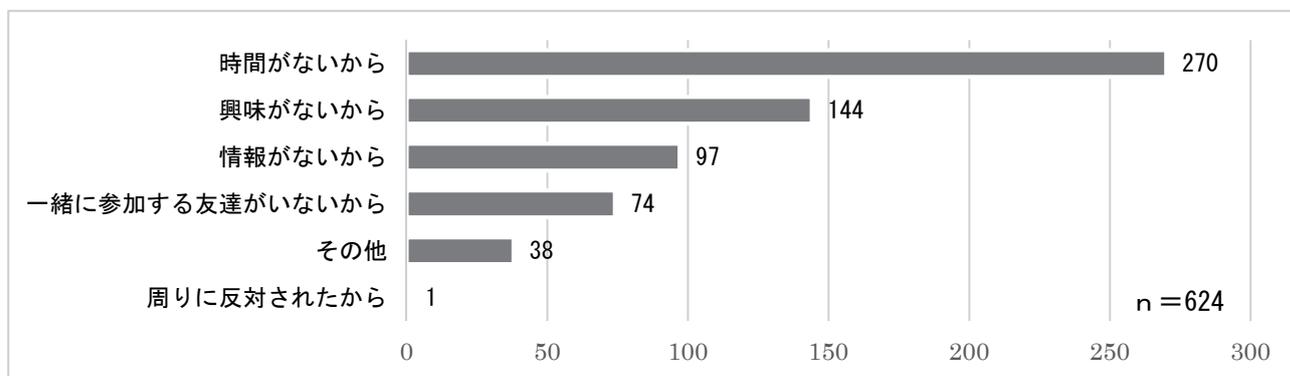


#### 【その他】

- ・役員だったから (同 1 4) ・順番が回ってきたから (同 6) ・義務だから (同 4)
- ・子ども会行事だから (同 3) ・学校行事だから (同 2) ・近所つきあい ・強制的に
- ・義務感から ・人がいないから ・子供たちのため ・業務化されているため
- ・決まりだからでなければ気まずい ・人間関係を円滑に保つため ・周りの人が参加しているから
- ・当たり前だと思っていたから ・やらなければいけないと思ったから ・子供が参加したから
- ・年間行事として、いろいろな行事が見られてうれしい。 ・配偶者が参加しないので
- ・そこに住んでいるから ・子供が関わる行事 ・その地域に属する者として当たり前と思うから
- ・普段お世話になっているから、恩返しの意味を込めて。
- ・義務 (親として参加) しなくてはいけないものと思ったから。地域に住む者として行わなければならないことだと思うから。

#### 【質問 (4) は (1) で「参加したことがない」と答えた方のみ】

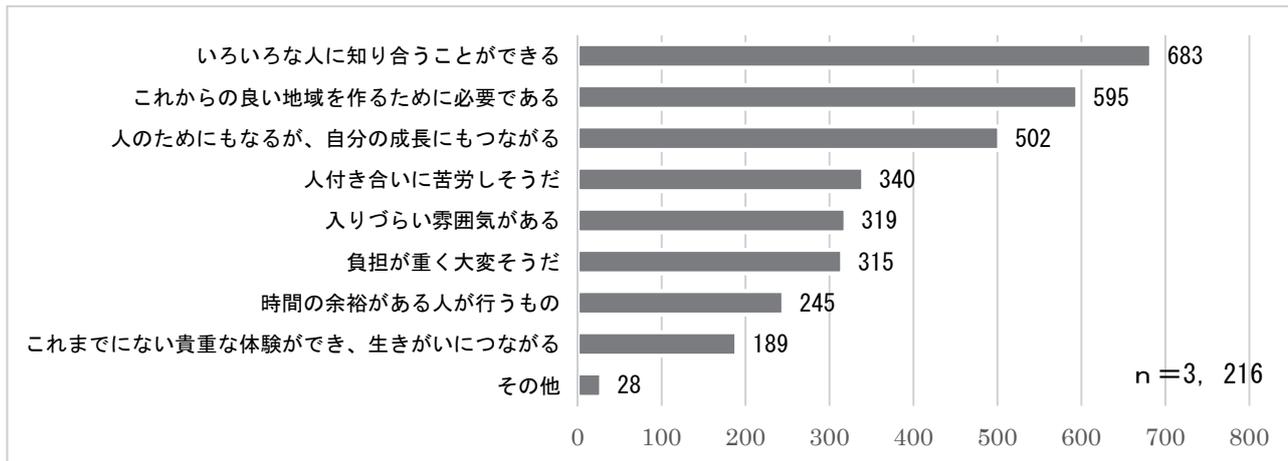
### (4) 地域活動に参加していない理由 (2つまで)



#### 【その他】

- ・子育て中 ・体調が悪かった ・地域活動がない ・体が不自由なため ・仕事で忙しい
- ・親が病気で介護しているため ・魅力的なものがない ・現在はあまり必要性を感じていないから
- ・楽しくはないから ・子供の部活で忙しいから (中学・高校)
- ・仕事が土、日のため、子供の顔を地域の方に知ってほしくて参加したいが、仕事があるため残念ながらできない。
- ・あと 10 年もしたら今の 60, 70 代の方が辞め、必然的に自分が参加しなければならないため、人員のいる今はあえて参加していない。

(5) 地域活動に対して、どのような考えを持っているか（あてはまるもの全て）

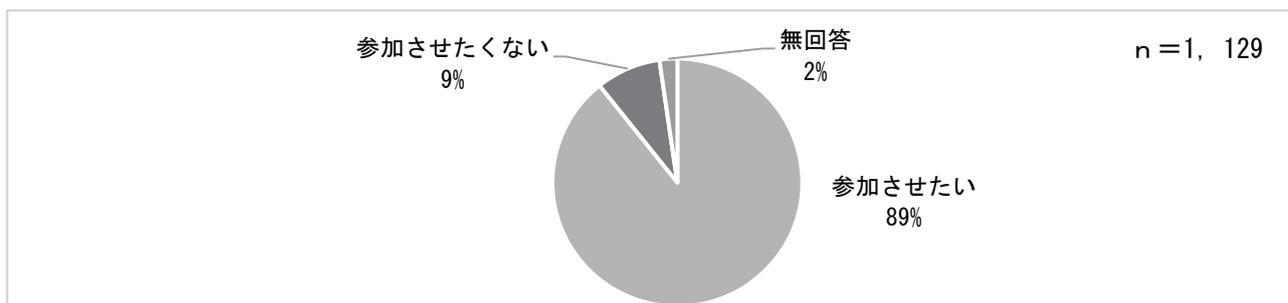


【その他】

- ・かかわりたくない
- ・考え方を受け入れてくれない
- ・若い人がいない，ベテランさんの声掛けもない。
- ・以前の住所で長年育成会の理事をやっていたので休みたい
- ・スポーツ大会などは人数少なく大変そう
- ・参加できる一部の人がばかりに負担がかかっている
- ・仕事をしながらだと時間がなく参加するのが難しい
- ・活動に参加する事で内部を知る事ができ，より活動の趣旨が分かる。地域の状況が分かる。
- ・地区の人数（若い人の）が少ないために若い人の負担が重いのは事実
- ・時にストレスを感じる事がある。参加出来ない場合など断りにくい雰囲気がある。
- ・今頑張っている方は年配が多いので，今後若手でやっていけるか心配。
- ・会社勤めしていると，地域活動に参加する余裕がない(時間と心身共に)
- ・参加出来る範囲での参加（土，日だけとか）で良いと思っている
- ・その地域によりカラーが様々であり，人間関係も難しい地域もある。お互いが尊重しあえ，理解しながらの活動であれば，より良いものができ，今後につながっていくと思う。
- ・PTA，親子会役員など会をやめたり役を逃れたりするずるい方がいる一方，何度もやることになるのは負担，苦痛。PTAも親子会もなくなればよい。
- ・地域が楽しければ住んでいる人たちが楽しい毎日を過ごせる。結果犯罪等がおきにくくなるのではないかな。

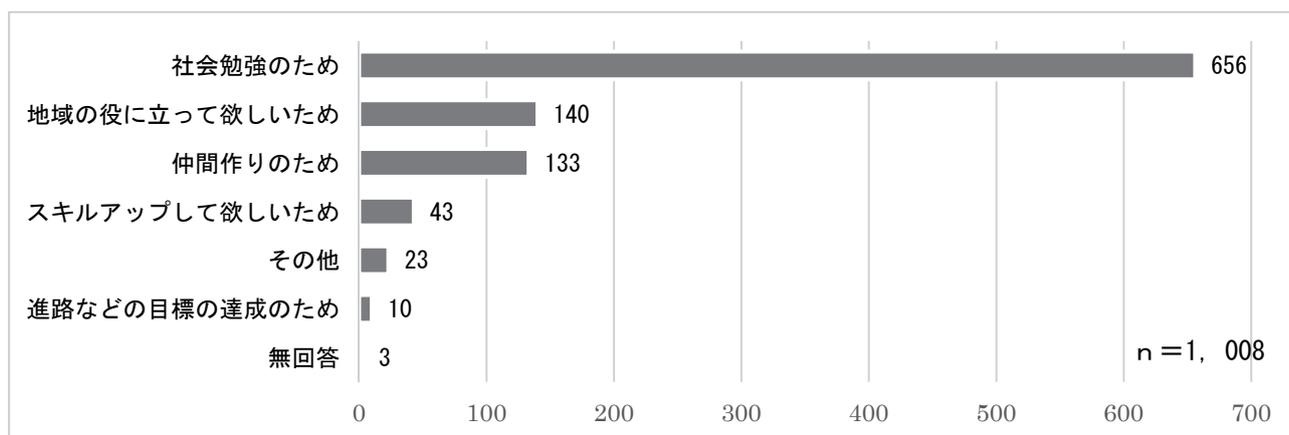
問5 自分の子供の地域活動に対する考えについて

(1) 自分の子供が地域活動に参加することについてどう思うか



【質問（２）は（１）で「参加させたい」と答えた方のみ】

（２）地域活動に参加させたい理由

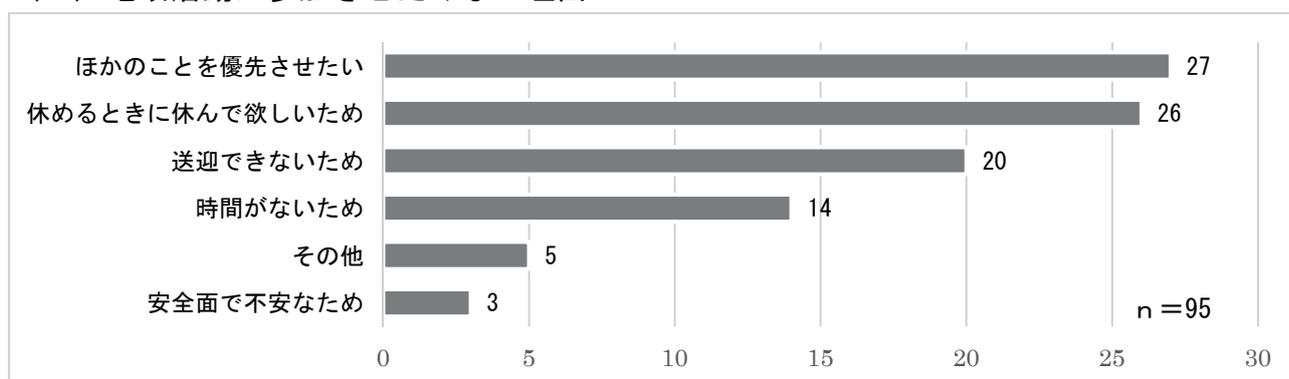


【その他】

- ・ 地域の一員としての意識を持ってほしいから（同2）
- ・ 本人がやってみたいと思えば（同2）
- ・ 経験することは良いことと思う
- ・ 地域の人たちとは関わりを持ってほしい
- ・ 参加することにより、何かを得ることが出来るため（経験）
- ・ ほかの大人にも子供の顔を覚えてもらうのに必要 ・ 自分で目的を持ってするならどんな目的でも良い
- ・ 自分の住んでいる地域が沢山のの方々の手によって成り立っていることを知ってもらいたい
- ・ 社会勉強のため、スキルアップして欲しいため（2つ回答）
- ・ 地域の役に立って欲しいため、社会勉強のため（2つ回答）
- ・ 仲間作りのため、地域の役に立ってほしいため、社会勉強のため、スキルアップしてほしいため（4つ回答）

【質問（３）は（１）で「参加させたくない」と答えた方のみ。】

（３）地域活動に参加させたくない理由



【その他】

- ・ 受験が終わるまではひかえたい ・ 親子の時間がとれないため

## 問6 地域活動についての意見など

- ・若い世代（子育て世帯・働く世代）には負担が大きい（同14）
- ・新しい意見が取り入れられない（同5）
- ・地域活動に関する情報が不足している（同5）
- ・ほぼ強制参加となることに不満がある（同5）
- ・新参者（転入者・若い世代）が入り込みにくい（同5）
- ・もっと気軽に参加できるようにしてほしい（同5）
- ・もっとイベントを増やしてほしい（同3）
- ・参加させたくても送迎が難しい（同2）
- ・子供は地域の皆様に育ててもらっていると思う
- ・若い人たちに参加してほしい
- ・子ども会への負担が大きすぎる
- ・まだまだ魅力的な活動は少ない
- ・参加したくなる活動のあり方が必要ではと思う
- ・部活で忙しいので地域活動に参加する時間がない
- ・他の市町とも交流があるといいと思う
- ・これからも積極的に参加していきたい
- ・別に地域活動に興味がない
- ・色々なことをすることによって、自分に合うものが見つかるかもしれない。
- ・多くの方が地域活動に参加できる方策を考えて行く必要がある
- ・人が多い地域はいいが、少ないとやることも多く大変。
- ・地域活動が生活に負担になるようなことはやめてほしい
- ・同じ顔ぶれになっている点は、良い所、悪い所があるが、これが現状だと思う。
- ・地域と学校が共に協力し合えるような関係を作っていければ良いと思う
- ・地域活動により、人と人がつながる事がとても素敵だと思う。
- ・もっと障がい者が外に出て地域の方々と触れ合えるようなまちづくりをお願いしたい
- ・皆が楽しく活動できる地域活動があればいいなと思う
- ・地域コミュニティが大切なことはわかるが、今の時代家庭を大事にしたい。
- ・地域活動をもっと行政で促すべき。若い人たちがもっと参加すべき。
- ・自分の時間と気持ちに余裕が出来る様になったら参加していきたいと思う
- ・子供を育てる環境として、体育施設や図書館などが充分ではないと思う。
- ・地域活動は参加したい人がすれば良い。狭い町なので何でも知られすぎて嫌だ。
- ・顔が広く、気さくな方や話しが楽しい方にぜひ、誘われたい。
- ・地域活動も大切だと思う。少子高齢化の中、負担軽減なものになってくるといいと考える。
- ・役職を恐れずにこなす努力をしてくれれば、この地域はもっと良いところになると思う。
- ・考える方も大変だと思うが、いろいろな体験ができるのでぜひ参加させたいと思う。
- ・自分のことを見直すこともできると思う。地域がおもしろいか、好きか嫌いかは自分次第。
- ・自治会は、年配の方が多く活動しているが、PTAも無理なく活動に参加し、交流できたらと思う。
- ・その地域に住んでいることが地域の一員であるので、お互い様の気持ちを持つことが大切だと思う。
- ・仕事が土、日と休めないため、地域活動に参加できず残念に思う。休みのときは子供と参加したい。

- ・地域の人々が幸せを感じる町づくりにみんな知恵を出して自分が住む町がもっとよくなってほしい
- ・地域活動に参加することで、一般的な考え方や社会性が育ち、自分自身の幸せ感が増すと思う。
- ・小中学生や高校生など若いうちに社会について学べることは、貴重な体験で良いと思う。大人になると時間や精神的な理由で大変なので、できる時に活動してほしい。
- ・地域に顔見知りが増えることで安全が守られることもあると思うので子供のためには必要な活動だと思う
- ・高齢化社会では実働世代が少なくなり、無償地域活動は困難になると思う。職として有償とし、経費負担とする方が平等である。
- ・今後は高齢化もあり、平等感の部分でも費用負担→業者依頼の形態を取らざるを得ないかも。ボランティア活動には限界がある。
- ・活動している人は、地域の人が参加しやすい工夫をするべき。(特定の人たちだけで盛り上がり入りづらく感じる) 活動していない人は、地域のために参加してみるべき。
- ・若者が住み続けたいと思う環境ではないと思うので、学校が残るかどうかなど不安に思う。地域活動も活気がなくなるのではと思う。
- ・どのような活動をしているのか、どのようにお世話になっているのか、お話や体験などから知る機会が多い方が学びや思いやりの心も育つと思う。
- ・社会に出た時、一番大切なのはコミュニケーション力だと思う。時間が合えば、いろいろな事に参加させたいと思っている。
- ・ある程度知り合いになると助け合いが出来るので、自分にとってもプラスになり、楽しい。たまに面倒臭いときもありますが。
- ・個人で参加するのは子供がいやがるので、もし可能であれば学校の行事の1つとして地域活動に参加できたらと思う。
- ・私の住んでいる地域は、とても住みやすい。福祉にも力を入れている町だと思う。娘2人にも地域活動には積極的に参加してほしいと思う。
- ・私の住んでいる地域は地区活動が盛んで人とのつながりが多くとてもよい。地区活動を通してお年寄り、子供が顔見知りになることは安全にもつながると思う。
- ・学校でも地域活動の機会を作っていただいているのは良いことだと思う。学校の中だけの人間関係だけでなく、異世代の人と関わることは将来役に立つと思う。
- ・子供は地域の宝とはよく言ったもので、多くの大人の目で見守り、多くの大人の心で支え、育てていくことで少しずつ成長し、次の世代へつながると思う。
- ・学校行事と地域行事が一緒にならないよう、学校・町・イベント責任者などで話し合いの場を設けることが必要だと思う。
- ・親子で地域活動に参加できるきっかけがあれば親子の触れ合いにもなり、地域にも役立っていいと思う。ぜひ親子で参加できる企画があればと希望する。
- ・核家族化や少子化の現代、子供が1人で留守番をしていることも多いので、地域全体で見守り、サポートしていく必要性も感じる。
- ・地域活動が悪いとは思わないが、あまりに多すぎて精神的負担になっており、もう少し活動を減らしてほしい。
- ・地域活動に参加したくても、足腰が悪く参加できない方々のサポートを考え、参加できるように協力したい。
- ・忙しい時や協力をしてもらえない時もあるが、人とのつながりができることが自分の財産になっている。
- ・人口が減少している町に残ってくれるか分からないので親として不安である。明るい未来が広がる良い町が残ってほしい。

- ・年々人手が少なくなり、年齢も高齢化しており、交代できる人も少なく、活動する人に負担がかかっている。
- ・今まで参加した事がない方も参加しやすい子供向けの活動や共に成長を楽しめる様、スパンの長い継続型のものを企画してほしい。
- ・活動はよいことだと思うが、時間がなく、できない。この地域に来て日が浅く、まだ参加したいとは思わない。
- ・子供がどんどん地域に入っていけるように社会性が身につくような体験を学校の活動でも取り入れてほしい。ジュニア・リーダーだけではなく、ボランティアがあると良いと思う。
- ・住民が減少してきている地域でもあり、将来的に地域活動も困難になると思われる。しかし、地域活動によりつながりも生まれるため、今後も参加していきたい。
- ・出席する人、しない人の差がありすぎる事は不平等かなとも思う。休む事があまりできないのに、地域活動に参加し時間を取られるのも少し不愉快と個人的に思ってしまう。
- ・子供を地域活動に参加させたい気持ちはあるが、部活動や塾と学校以外も忙しく、参加出来ないのが現状。中学生は学校全体で地域と関わる活動等と取り組めると良いと思う。
- ・蔵王町の地域活動については、他市町村の方々からとても良いと言われている。人間関係においても互いに尊重し、助け合いながら活動することができ、良いと思う。
- ・いつも地域の方にお世話になっており、老人会の方々は孫がいる・いないに関わらず子ども会や地域のために協力してくれている。今後若い世代だけで地域を守れるか心配。
- ・安心、安全に住みやすい町にするために、地域活動は必要だと考えている。少子高齢化の社会を改善する方法は、「地域連携」だと思うので、その体制づくりをしてほしい。
- ・小さな町だが、様々なことに挑戦する姿勢や隣近所との交流などの温かさもあり、とても住みやすく私は好き。子供のため、これからも参加したい。
- ・仕事をしている女性が増え、子育てさえ業者まかせなど、難しい問題が山積みだが、子供を参加させて親も引き込むというのは良いアイデアだと思う。
- ・子供たちの地域活動については具体的には難しいと思う。個々が部活、クラブチーム、習い事、塾など休日時間に調整できず、行政区からの要請にも応えられない事も多い。
- ・車社会化などで隣とのつながりが少なくなっている今、人と人とのつながりは今後大切になっていくと思う。いろいろな事件もあり怖い世の中なのでつながりは大切。
- ・若い人の中にも地域活動を通じて、自分の住んでいる町を活性化させたいと考える人も多いかと思う。ぜひ若い人の意見をすくい上げて若者の力を活用して地域おこしをしてほしい。
- ・地域活動をする事があたりまえの認識ができてしまうと、家庭の事情（仕事の勤務形態等）で参加できない、参加しない事が地域へ溶けこむ事への判断基準になってしまう気がする。過度な地域活動は負担になると思う。
- ・子ども会に入ると役員をしないといけないので脱退したいという人がいるが、子供と子供のつながりが大切だから入るのだということを学校でも話してもらい、なるべく入ってもらいたい。
- ・以前住んでいたところは人口が多く、小中学校が地域活動の拠点となっていた。自治会やPTA主催の行事、市内の全てのPTA共催の大会など多くのイベントがあったので、今の地区だと少し見劣りする。
- ・最初は誰でも入りづらいものだと思う。現に私自身もそうだったが、自分の知人に誘われ色々やってみたら楽しかった。紙やアプリなどで紹介するよりも知っている人に言われたり聞いたりすると、意外にすんなり入れるものだと思う。
- ・子供にとって身近な地域活動は地区の行事になると思うが、同じ地区の大人が自分の嫌っている人の

子供につらく当たっているのを見て、親も一緒に参加しないと不安に思った。安心して子供を参加させられない地域活動は問題があると思う。

- 小さい頃から様々な年代の方々と関われる機会があればある程度、人として豊かになっていけると思う。子供だけでなく、私たち大人も同じだと考える。地域活動はそんな豊かな人を育てる場所の気がする。
- 地区の文化祭など、文化活動は盛んだが、若い世代の女性が持つ資格、技能を生かせる場所がない。ほかの市町村はまちぐるみでその世代のイベントをバックアップしているので、生かせる機会が増えてほしい。
- 自分たちの育った地域で、いろいろな行事に参加するのはとても良いことだと思う。子供のうちから地域の魅力にひかれ、将来地域の役に立ってくれる。また、年齢に関係なく仲間の「和」が広がり、とても素晴らしい時間を生むのではないかと思う。
- 地域活動（お祭りの準備や片付け、運動会参加やその後の懇親会等）に小さい頃から参加させているが、人のために働いている大人の姿を見て協力したり、地域にとけ込むことで、色々な人に声をかけてもらったり、いいことがいっぱいある。地区の一員としての自覚が生まれる。
- 地域活動は、やらなくて良いのであれば自分の好きなことに時間を充てられて楽。しかし、自分や家族、周りの（地域の）人たちが快適により良く生活するためには必要なことだと思う。時代変化に応じて見直しながらかつていくべきで、子供たちにも必要性和楽しさを伝えていきたいと思う。
- 子ども会で地域活動がほぼ終わり、中学時代はほとんど関わらず、自分の子供が小学校にあがったり、家を買ったりしたら強制的に活動再開。それを負担に感じている親を見て育つ子供がどう思うか。誰もが負担に思わず参加できるようなきっかけ・仕組みづくりがあればよいと思う。
- 地域活動は自分や家族のために大切だと思ってやっているが、年々自分の事ばかり理由にして親子会にすら入らない家庭が多く残念である。高齢化が進んでいく中で、近所の人を陰ながら支えていかなければいけないと感じている。いつも感じるのは、親子会に入っていない家庭の子供は、顔見知りでもあいさつすらしない子が多く残念。
- 町に住んでいる高齢者は時間的余裕があるので集まれるが、田舎では農作業をしていたり、足が無かったり、隣近所が遠いので集まりにくい。若者は仕事で家にいないことが多いため、イベントに参加しない。イベント自体も来るのは同じ顔ぶれ、この先もっと参加者が減少していくと思う。
- 私の住んでいる地域では、子ども会育成会行事に中学生も積極的に参加し、地域に貢献している。その活動を地域や教育機関で評価したい。例えば、大学生はボランティア活動をすることにより単位がとれるように中学生、高校生にもそのような仕組みがあればより地域の活性化につながると思う。
- 私の親世代（60～80代）は地域のつながりが強く、いろいろな事に積極的だが、若い世代（30～50代）はつながりが弱いと思う。これから人口が少なくなるので、地域のつながりを強くしていかなないと地域の魅力がなくなると思う。助け合える人間関係をつくっていくため、これからも積極的に地域の行事に参加していきたいと思う。
- 私は、地域活動にはどんどん参加してほしいと思う。しかし、中学生が参加できる活動が少なく（ボランティアや、参加できるイベントにはほぼ参加しています）もっとたくさん機会があれば良いと思う。社会勉強の場を作ってもらって、スキルアップして、将来地元地域を明るく魅力的な街にしていきたい。



資料 アンケート（生徒用・保護者用）



(生徒用)

## 「青少年の地域活動に関する意識調査」 ご協力をお願い

### ○はじめに

子供は将来の地域の担い手であり、この時期からの地域活動への参加・参画が重要視されています。

本調査は、子供の地域活動における現状と課題を把握し、今後の地域活動の活性化に向けた手立てを考えることを目的に実施するものであります。

今回、大河原教育事務所管内2市7町にお住まいの中学校第2学年生徒及びその保護者を対象にアンケート調査を実施いたしますので、お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

### ○ご記入について

- (1) ご回答の際は、質問事項の中からあなたの現状やお考えにもっとも近いものを選び、その番号を□の中に記入してください。
- (2) ご質問中、次の問いへの進み方が書いてある場合は、その指示にしたがってお進みください。
- (3) ご不明な点がございましたら、〇〇教育委員会生涯学習課（Tel〇〇-〇〇〇〇）までお問合せください。
- (4) アンケートのご記入が終わりましたら、平成29年〇〇月〇〇日（〇）までにお子さんを通じて担任の先生に提出してください。

実施機関：大河原地区社会教育主事研究協議会

大河原地区社会教育主事研究協議会は、管内の市町教育委員会生涯学習担当で構成された研究会です。なお、調査結果はすべて統計的に処理します。この調査で収集した情報につきましては、当協議会の研究目的以外で利用いたしません。

ここから質問がはじまります。

### 問1 あなた自身のことについておたずねします。

(1) あなたの性別を教えてください。

1. 男                      2. 女

(2) 部活動の頻度について教えてください。

1. 週1～2回              2. 週3～5回  
3. 週5回以上            4. 参加していない

(生徒用)

(3) あなたの家族構成について教えてください。

- |             |                   |
|-------------|-------------------|
| 1. 親と自分     | 2. 親と兄弟姉妹と自分      |
| 3. 親と祖父母と自分 | 4. 親と兄弟姉妹, 祖父母と自分 |
| 5. 祖父母と自分   | 6. その他 ( )        |

**問2 あなたの余暇時間の使い方についておたずねします。**

(1) 平日の放課後の使い方について多いものを2つまで選んでください。

- |            |                |
|------------|----------------|
| 1. 勉強      | 2. 運動・スポーツ     |
| 3. テレビ・ゲーム | 4. 読書          |
| 5. 家の手伝い   | 6. スマホ・インターネット |
| 7. 友人と遊ぶ   | 8. 習い事         |
| 9. 地域活動に参加 | 10. その他 ( )    |

(2) 休日の使い方について多いものを2つまで選んでください。

- |            |                |
|------------|----------------|
| 1. 勉強      | 2. 運動・スポーツ     |
| 3. テレビ・ゲーム | 4. 読書          |
| 5. 家の手伝い   | 6. スマホ・インターネット |
| 7. 友人と遊ぶ   | 8. 習い事         |
| 9. 地域活動に参加 | 10. その他 ( )    |

(3) あなたの生活は充実していますか。

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. 充実している     | 2. やや充実している |
| 3. あまり充実していない | 4. 充実していない  |

(4) (3) の回答を選んだ理由は何ですか。

- |         |            |
|---------|------------|
| 1. 勉強   | 2. 部活動     |
| 3. 人間関係 | 4. その他 ( ) |

(5) 今後, 特に充実させたいことを3つまで選んでください。

- |         |            |
|---------|------------|
| 1. 勉強   | 2. 部活動     |
| 3. 地域活動 | 4. 趣味      |
| 5. 友人関係 | 6. その他 ( ) |

**問3 あなたの地域への関心についておたずねします。**

(1) あなたは自分の住む地域が好きですか。

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1. 好き       | 2. まあまあ好き |
| 3. あまり好きでない | 4. 好きでない  |

(生徒用)

**【質問(2)は(1)で1または2と答えた方のみお答えください。】**

(2) その理由はなんですか。2つまで選んでください。

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| 1. 自然が豊かだから  | 2. 魅力的なお店が多いから      |
| 3. 人間関係がいいから | 4. イベントやお祭りが多から     |
| 5. 安全と思うから   | 6. ほかの市町のことがわからないから |
| 7. その他 ( )   |                     |


**【質問(3)は(1)で3または4と答えた方のみお答えください。】**

(3) その理由はなんですか。2つまで選んでください。

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 1. 自然が少ないから  | 2. 魅力的なお店が少ないから   |
| 3. 人間関係が悪いから | 4. イベントやお祭りが少ないから |
| 5. 安全ではないから  | 6. ほかの市町の方が魅力的だから |
| 7. その他 ( )   |                   |


**問4 あなたの地域活動への関わりや考えについておたずねします。**

(1) あなたは中学校入学後、地域活動に参加したことがありますか。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 参加したことがある | 2. 参加したことがない |
|--------------|--------------|

--

**【質問(2),(3),(4)は(1)で1と答えた方のみお答えください。】**

(2) それはどのような活動ですか。あてはまるものを全て選んでください。

- |                |
|----------------|
| 1. 美化活動        |
| 2. ボランティア活動    |
| 3. 祭り・芸能祭      |
| 4. ジュニア・リーダー活動 |
| 5. スポーツ活動      |
| 6. 防災・交通安全活動   |
| 7. その他 ( )     |


(3) 参加した理由はなんですか。2つまで選んでください。

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. 地域の役に立ちたい | 2. 自分のスキルアップ   |
| 3. 仲間づくり     | 4. 楽しい         |
| 5. 社会勉強      | 6. 家族や友人すすめられて |


(生徒用)

(4) 地域活動に参加してどのようなことを経験したり感じたりしましたか。

2つまで選んでください。

1. ほめられたり, 感謝の言葉を言われたりして嬉しかった。
2. 人と交流をしたり, ふれ合ったりして楽しかった。
3. 最後までやりとげ, 頑張ればできるという達成感を感じた。
4. 誰かの役に立つことができ嬉しかった。
5. 誰かに頼りにされて嬉しかった。
6. 進んで人と関りたいと思った。
7. 人や地域のためにもっと貢献したいと感じた。
8. 中学生の自分でも, いろいろなことができると感じた。
9. 誰かに支えられている, 地域の一員としての自分を感じた。
10. その他( )


**【質問(5), (6)は(1)で2と答えた方のみお答えください。】**

(5) その理由はなんですか。2つまで選んでください。

1. 時間がないから
2. 情報がないから
3. 興味がないから
4. 一緒に参加する友達がいないから
5. 周りに反対されたから
6. その他( )


(6) 今後, 地域活動に参加したいですか。

1. 参加したい
2. 参加したくない

--

**【質問(7)は(6)で1と答えた方のみお答えください。】**

(7) それはどのような活動ですか。2つまで選んでください。

1. 美化活動
2. ボランティア活動
3. 祭り・芸能祭
4. ジュニア・リーダー活動
5. スポーツ活動
6. 防災・交通安全活動
7. その他( )


問5 最後に, 地域活動についてご意見などございましたらご自由にお書きください。

--

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

(保護者用)

## 「青少年の地域活動に関する意識調査」 ご協力をお願い

### ○はじめに

子供は将来の地域の担い手であり、この時期からの地域活動への参加・参画が重要視されています。

本調査は、子供の地域活動における現状と課題を把握し、今後の地域活動の活性化に向けた手立てを考えることを目的に実施するものであります。

今回、大河原教育事務所管内2市7町にお住まいの中学校第2学年生徒及びその保護者を対象にアンケート調査を実施いたしますので、お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

### ○ご記入について

- (1) ご回答の際は、質問事項の中からあなたの現状やお考えにもっとも近いものを選び、その番号を□の中に記入してください。
- (2) ご質問中、次の問いへの進み方が書いてある場合は、その指示にしたがってお進みください。
- (3) ご不明な点がございましたら、〇〇教育委員会生涯学習課（TEL〇〇－〇〇〇〇）までお問合せください。
- (4) アンケートのご記入が終わりましたら、平成29年〇〇月〇〇日（〇）までにお子さんを通じて担任の先生に提出してください。

実施機関：大河原地区社会教育主事研究協議会

大河原地区社会教育主事研究協議会は、管内の市町教育委員会生涯学習担当で構成された研究会です。なお、調査結果はすべて統計的に処理します。この調査で収集した情報につきましては、当協議会の研究目的以外で利用いたしません。

ここから質問がはじまります。

### 問1 あなた自身のことについておたずねします。

(1) あなたの性別を教えてください。

1. 男                      2. 女

(2) あなたの年代について教えてください。

1. 30代未満              2. 30代  
3. 40代                      4. 50代以上





(保護者用)

(5) あなたは地域活動に対して、どのような考えをお持ちですか。

あてはまるものを全て選んでください。

1. これからの良い地域を作るために必要である。
2. これまでにない貴重な体験ができ、生きがいにつながる。
3. いろいろな人に知り合うことができる。
4. 人のためにもなるが、自分の成長にもつながる。
5. 時間の余裕がある人が行うもの
6. 負担が重く大変そうだ。
7. 入りづらい雰囲気がある。
8. 人付き合いに苦労しそうだ。
9. その他 ( )


**問5 お子さんの地域活動に対する考えについておたずねします。**

(1) 自身のお子さんが地域活動に参加することについてどう思いますか。

1. 参加させたい
2. 参加させたくない

--

**【質問(2)は(1)で1と答えた方のみお答えください。】**

(2) その理由はなんですか。

1. 仲間作りのため
2. 地域の役に立って欲しいため
3. 社会勉強のため
4. スキルアップして欲しいため
5. 進路などの目標の達成のため
6. その他 ( )

--

**【質問(3)は(1)で2と答えた方のみお答えください。】**

(3) その理由はなんですか。

1. 安全面で不安なため
2. 時間がないため
3. 送迎できないため
4. 休めるときに休んで欲しいため
5. ほかのことを優先させたい
6. その他 ( )

--

**問6 最後に、地域活動についてご意見などございましたらご自由にお書きください。**

--

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

# 先進地研修視察報告

平成29年度 大河原地区社会教育主事研究協議会先進地研修視察要項

- 1 目的 生涯学習の充実が求められる今日、その先進地を視察することにより、管内の各市町における今後の生涯学習及び社会教育推進に役立てるとともに、社会教育主事としての資質の向上と豊かな発想力を培う。
- 2 期 日 平成29年9月14日（木）
- 3 視察先 利府町生涯学習センター（ジュニア・リーダーの活動）  
七ヶ浜町立向洋中学校（生徒の地域活動への参画）  
仙台市若林区中央市民センター（チャイルドボランティア「チャボ！」の取組）
- 4 会 場 研修1：利府町生涯学習センター  
所在地：利府町中央二丁目11番地1  
  
研修2：七ヶ浜町立向洋中学校  
所在地：七ヶ浜町遠山一丁目9番18号  
  
研修3：仙台市若林区中央市民センター  
所在地：仙台市若林区南小泉1丁目1番1号
- 5 日程等 8：20 大河原合同庁舎 集合  
8：30            "            出発  
9：30 利府町生涯学習センター  
【研修1】利府町のジュニア・リーダー活動について  
講話・質疑応答：生涯学習課担当職員  
11：00 七ヶ浜町立向洋中学校  
【研修2】教育課程における生徒の地域活動への参画について  
講話・質疑応答：向洋中職員  
12：10 昼食・休憩・移動  
14：00 仙台市若林区中央市民センター  
【研修3】チャイルドボランティア「チャボ！」の活動について  
講話・質疑応答：市民センター職員・社会教育主事  
15：10 出発  
16：20 大河原合同庁舎 到着・解散
- 6 参加者 大河原地区社会教育主事研究協議会会員及び社会教育関係職員等

## ＜研修1＞ジュニア・リーダーの活動について 利府町教育委員会生涯学習課 主事 奥田 崇文氏

### ◆利府町ジュニア・リーダー（JL）サークル「十符っ子」について

- 1970年に発足し、現在は中学1年生～高校3年生の36名（高校生：14名，中学生：22名）が所属している。
- 学校とJL活動の両立が難しい中、JL自身が「来られるときに全力で」をモットーにしている。出席率に偏りはあるが、1年間で一度も来ないというメンバーはいない。



### ◆活動内容

- 定例会は毎月第2・4土曜日の14時～16時で開催。行事の打合せや自主企画についての話し合いなどを行っており、毎回10名程度の出席がある。
- 町や子ども会からの派遣依頼には、サークルのPRになるためできるだけ参加するようにしている。参加することでJL自身の成長にもつながる。子供たちに「JLは楽しい」と思ってもらえるように、また、地域の人にJLのことを知ってもらえるように意識して活動している。
- 町子連総会においてJLができることをPRする時間を設けている。依頼を受けるきっかけや、子ども会のネタとして提供する機会となっている。
- 二市三町（多賀城市・塩釜市・松島町・七ヶ浜町・利府町）のJL交流会では、キャンプやゲームを通して互いのサークルの良いところを発見し吸収している。
- インリーダー研修会を小学5～6年生を対象に開催している。JLは子供のサポートや司会を行い、大人（町子連・職員）はJLのサポートを行う。「インリーダーの役割」などについてJL自身が内容を考え子供たちへ指導する。
- 年度末に小学5年生～高校生を対象としたJL体験会を開催する。参加者はインリーダー研修会に参加した子供が多く、体験会の参加者の半数程が初級研修会を受けてJLとなる。
- 自主企画はJLの提案を受けたものをできる限り実施する。そうすることで、実施後はJLとしての自信が付き、やりがいも感じる事ができる。県内JL交流会や子供を呼ぶイベントなどを企画開催している。
- JLには活躍の場が必要であり、担当者はJLが活躍するために地域へ情報発信をして活動をサポートすることが大切。



### ◆学校との関わり

- 小学校へは全校集会や昼休みの時間に訪問して事業のPRをしている。JLがそれぞれ卒業した学校へ行くようにしている。
- 中学校ではJL手帳を全校集会で配布したり、事務局でJL活動証明書を発行し進路に役立ててもらっている。また、課の職員が別の事業で学校に行く機会が多く、学校とのつながりができている。

## ◆保護者の理解

- 子ども会行事への参加は、保護者がJL活動を知る機会になっている。
- 入会後の保護者に対しては、分かりやすい資料を作成したり広報へ記事を掲載したりして活動の様子を発信している。

## ◆卒団後の様子

- シニア・リーダーは組織していないが、OB・OGを初級研修会に講師として招いている。

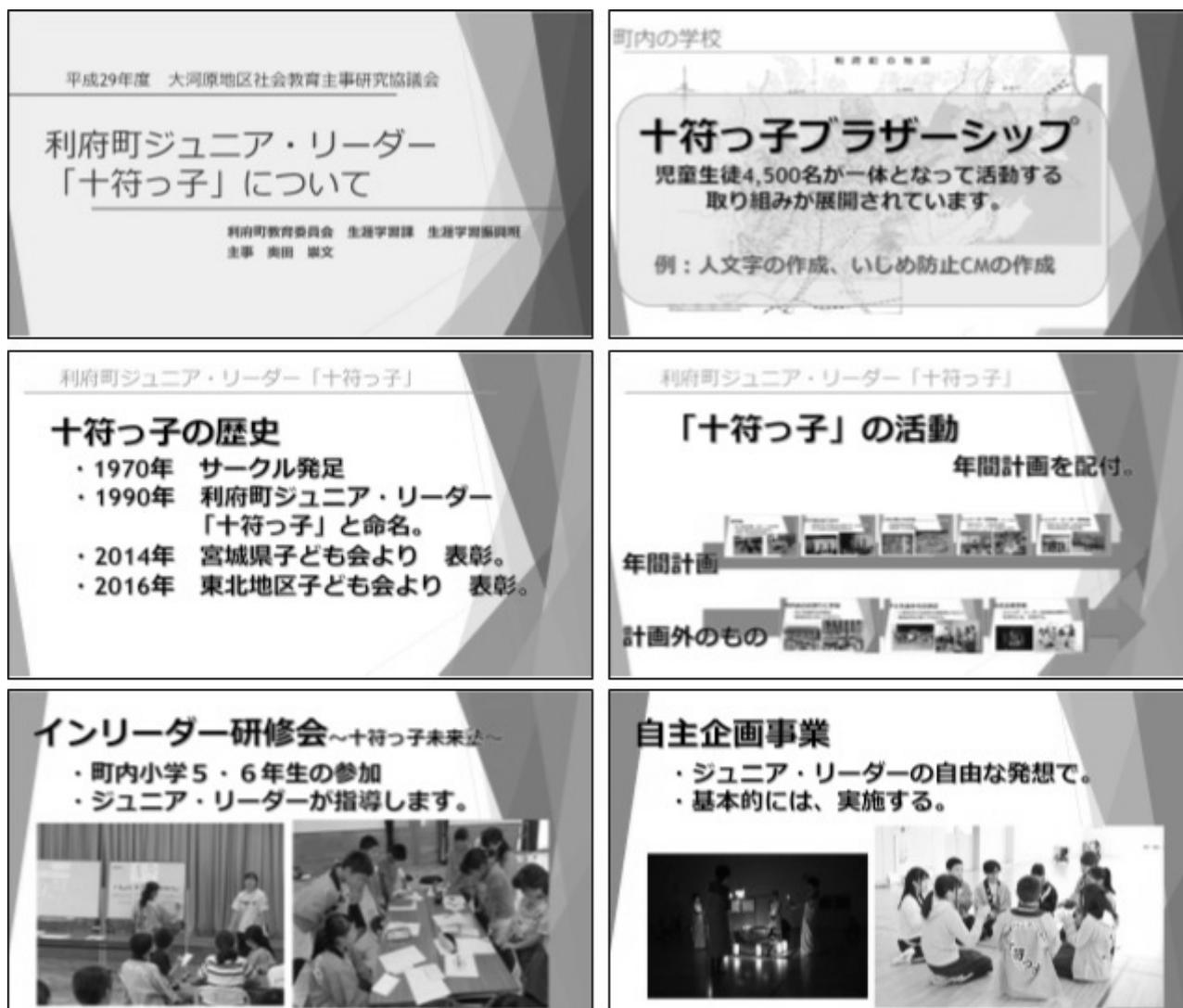
## ◆質疑

Q：インリーダー研修会とJL体験会のプログラムについて教えてほしい。

A：インリーダー研修会は1泊2日で行う。1日目の午前中は仲間づくりゲーム、午後は「子ども会について」をJLが指導したり、ダンスや夕食作りをしたりする。2日目には工作をして午前中に解散となる。JL体験会は半日で、「楽しむ」ということをテーマにしてゲームやダンスを子供たちと行う。JLの活動紹介もしている。

Q：二市三町合同の交流会は何年続いているのか。事業の課題は？

A：今年度で33回目のものである。事前打ち合わせの日程調整はメール等で行っている。各市町で担当を割り当てている。JLの参加は50名程度。担当者だけでなくJLのOB・OGもサポートに入っているが、現役に対しOB・OGが手伝いすぎることが課題となっている。



## <研修2>生徒の地域活動への参画について 七ヶ浜町立向洋中学校教諭 瀬成田 実氏

### ◆Fプロジェクト（Fプロ）について

○震災総合学習をする中で、生徒たちから「地域のために何かしたい」という声が挙がり、瀬成田氏が震災学習に熱心だった生徒へチーム立ち上げの声掛けをした。その生徒たち数名がリーダーとなり、有志チームとして発足。

○このプロジェクトには、生徒たちの地域を見る目を育てること、視野を広げること、社会参加の力を育てること等のねらいがある。

○当初は登録制としており、20～30名が登録していた。

登録制を廃止してから、現在は2年生～3年生の7名のリーダーを中心に企画している。大きな企画は生徒会と共催して実施する。

○現3年生が1年生のときに発足したもので、3年生の中には卒業後も活動を継続したいという生徒もいる。



### ◆活動の様子

○海浜清掃、災害公営住宅での交流会、小学校や校内で語り部等の活動を行っている。

○校内で参加者を募集する際は、ポスターやチラシを作成したり、昼の放送で呼びかけをしたりしている。

○部活のため参加が難しいという生徒も多いが、部活単位で活動に参加することもある。

### ◆活動の成果

○住民から「寿命が延びた思い」「また来てほしい」と言われ、活動が住民の役に立っているという意識が広がった。

○リーダーが活動に確信を持つようになった。

### ◆校内での発表の場

○5月は1年生を対象に、3月は全校を対象に活動紹介のプレゼンテーションを実施している。

○3学年内で夏休みの活動報告をしている。

### ◆外部への情報発信

○修学旅行の際、自主研修中に有志で手作りリーフレットなどを配布して町の復興とFプロの活動をPRした。

○活動のたびに新聞やテレビで紹介されている。



## ◆課題

- 担当している瀬成田氏が今年度退職するため、校内での今後の引継ぎが課題。
- 現3年生卒業後の活動の継続。大人や職員のサポートも継続していかなければならない。
- 地域や他団体と学校・教員の連携。教員の多忙さもあって、連携したい気持ちがあってもなかなか難しい。

## ◆質疑

Q：学校の活動の中でFプロにおかれるウエイトはどれぐらいなのか。

A：あくまでも生徒の「自主性」を大切にしている。塾に通う生徒が多いが、教員という立場上、Fプロへの参加を生徒に積極的に勧めることはできない。そのため、まずは実際に活動に参加してもらっている。一度参加してみて、「自分にとってこの活動が大切だ」と感じたら、今後も継続して参加してもらおう。

勉強や部活との両立については、部活を休んでFプロに参加する生徒を責めるような教員がいないため、生徒にとっては参加しやすい。また、校長の協力も大きい。

### 震災総合学習

- 2015年9月から2016年1月
- 七ヶ浜町立向洋中学校第1学年
- 内容
  - ・東日本大震災 あの日・その後・いま
  - ・あの日に向洋中 ・あの日を綴る
  - ・雄勝の小学生の取組に学ぶ
  - ・震災聞き取り調査 ・聞き取り調査発表会



### Fプロジェクト 活動記録

ふるさと  
ふっこう  
Future(フューチャー)

※3月に有志20名で立ち上げ、7月から  
活動開始

2016年(平成28年)7月  
～2017年(平成29年)5月



## ＜研修3＞チャイルドボランティア「チャボ！」の取組について 仙台市若林区中央市民センター 係長 沼田 智幸氏



### ◆チャイルドボランティア「チャボ！」について

○仙台市で実施している「子ども参画型社会創造支援事業」として、若林区が独自に「子どもたちに地域でのボランティア活動の機会をつくる」ことを目的として設立した。

○平成23年度に企画・実施したもので、12月に会員募集チラシを管内3小学校へ配布。翌平成24年1月に9名のメンバーで活動を開始した。

○現在、小学4年生～中学3年生の27名が所属している。

### ◆活動内容

○月2回活動しており、高齢者に届ける宅配弁当に添える手紙書きや地域の清掃活動などを行っている。

○メンバーの意見を取り入れながら活動している。

○清掃活動は年に3回行っている。毎回ごみが多く、子供たちからは「ごみを捨てさせないための取り組みが必要なのではないか」という提案があった。

○身近な地域で活動することで、地域での認知度を上げることができた。

○手紙は月に1回、一度に200通書く。自分の近況やお知らせなどを書いている。高齢者は「孫から届いたようだ」と喜ぶ。

○年度末には「チャボ！とあそぼう」を開催し、子供たちとゲームをしたり活動紹介をしたりしている。

○メンバーは普段できないことを体験したり、違う年代の人との接し方を学んだりしている。

○活動後は参加メンバーを対象にアンケートを行う。「ほかの人の役に立ちたいと思った」「改めて震災について知れた。今後も支援したい」などの感想がある。

○メンバーは活動を通して自分で課題を見つけ、どう解決するかを考える力が段々についてきている。

### ◆募集方法

○年度はじめに小学4年生～6年生を対象にチラシを配布。

○毎月通信を発行しており、関連する学校に配布する。

○保護者向けに説明会を実施している。

### ◆質疑

Q：チャボ！とJLの活動をどう区別しているか。

A：チャボ！からJLに入り、両方の活動をしている子もいるが、ほとんどは片方にのみ所属している。現在、若林区のJLは57名だが、チャボ！から入った子は1名。チャボ！に所属している子にとって、JLの活動は自分がやりたいこととは違うと考える子が多いことが理由として考えられる。



チャボ！で活動した子は、「卒業後もチャボ！で活動したい」という子が多い。

Q：地域の課題を子供たちにどうやって気づかせているのか。

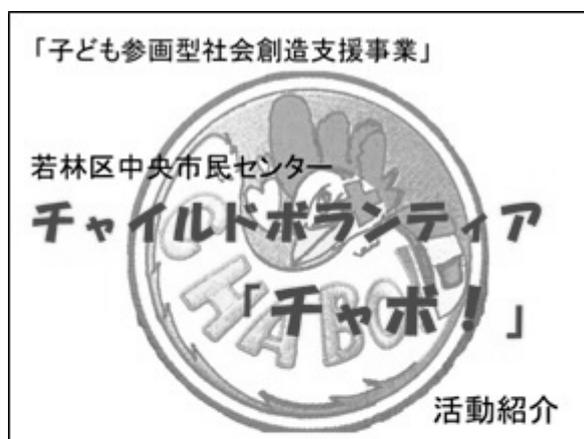
A：実際に足を運ぶことで、自分たちで気づいてどうすべきかを考える。「被災地に行って何かしたい」という声が挙がり、がれき撤去作業やいろいろなプロジェクトへの参加が実現した。

Q：チャボ！設立にあたり、卒業者の今後についても何かねらいはあるのか。

A：本来、この事業は地域で活躍する人材を育てることがねらい。できればチャボ！からJLに入ることを目指しているが、難しいところ。また、大学や就職で地域から離れる子も多い。

Q：学校との協力はどのようにしているのか。

A：チラシの配布や「チャボ！通信」の掲示をお願いしている。子供から昼の放送で宣伝したいという案が挙がったことがあり、学校へお願いして放送してもらったこともある。市内小・中学校教員に対し仙台市が委嘱する嘱託社会教育主事の連絡協議会があるので、学校の先生方へ声掛けやお願いをしやすい。





<参加者名簿>

教育委員会等	職名	氏名	担当
白石市	課長補佐（社会教育主事）	※小野 輝彦	
角田市	主事	只野 早夏	
	主事（社会教育主事）	※齋藤 史織	
蔵王町	社会教育主事	※梶原 一貴	
七ヶ宿町	係長（主幹）（社会教育主事）	※小掠 政光	研修委員長
大河原町	参事兼課長補佐 参事兼中央公民館長 （社会教育主事）	八島 良隆	
	主事	※石河 千宙	
村田町	総括主査（社会教育主事）	鎌田 浩孝	会長
	主査（社会教育主事）	※岡本 健志	研修副委員長
柴田町	主幹（社会教育主事）	木村 正人	
	主事	※渡辺 光	
川崎町	体育振興係長兼社会教育主事	※佐藤 伸一郎	
丸森町	社会教育主事	※荒井 優作	
仙南地域広域行政事務組合	主幹兼教育係長兼文化振興係長 （社会教育主事）	※黒澤 良	副会長
大河原教育事務所	次長（社会教育主事）	石河 秀一	

※は研修委員

ま と め

## ま と め

「研修テーマ設定の背景」で述べているとおり今回、大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会では「地域活動の活性化」をテーマとして研修に取り組み、その中でも「青少年の地域活動」にスポットを当て2カ年計画で研修を進めていくことになった。

研修を進めるにあたり、1年目である今年度は、現在の青少年層の地域活動に対する意識と課題を正確に把握することと先進地の事例から学ぶことが必要であると考え、「青少年の地域活動に関する意識調査」と「先進地研修視察」を行うこととなった。

### 『青少年の地域活動に関する意識調査』

標本数を各市町の中学校第2学年生徒数を基本として、中学校第2学年生徒とその保護者を対象に調査票の回収を行ったところ、生徒86.5%、保護者72.9%と高い回収率となった。

回答を見てみると、地域に対する愛着を聞いた質問では、中学生・保護者とも「好き」「まあまあ好き」を合わせると8割程の高い回答があり、理由として「自然が豊かだから」「人間関係がいいから」「安全だから」が上位を占める結果となった。

一方で、地域活動の経験の有無を聞いた質問では、中学生・保護者ともに「参加したことがある」の回答が6割程度にとどまり、内容として中学生は「祭り・芸能祭」「ボランティア活動」「美化活動」、保護者は「育成会・PTA活動」「祭り・芸能祭」「美化活動」が多数で、いずれも社会教育に大きく関わる項目であることが分かった。

地域活動の参加意欲については、地域活動に参加したことがないと回答した中学生の7割近くが「参加したくない」と回答し、「興味がないから」「時間がないから」「情報がないから」が理由として目立った結果となった。保護者へ自分の子供を地域活動に参加させたいか聞いた質問では、「参加させたい」が9割近い回答となり、「社会勉強のため」と答えた理由が圧倒的に多く、6割を超え、次いで「地域の役に立って欲しいため」、「仲間作りのため」であった。

調査結果から、中学生については地域に対しての愛着はあるものの、平日や休日の余暇時間においては、勉強や部活動などで多忙であり、余暇時間の在り方や使い方についてもインターネット・スマートフォンの普及や、テレビ・ゲームに時間を費やすことによることから地域活動に参加する余裕がないのではないかと考える。しかし、自由記述の地域活動に参加してみた意見などを見てみると、地域活動について前向きにとらえている意見が多く、アプローチ次第では地域活動への参加・参画は十分可能であると言える。まずは、我々が青少年層を取り巻く現在の環境や状況を把握し、理解した上で、青少年層がより参加・参画するための工夫が必要なのではないだろうか。

保護者への調査結果に目を向けてみると、自身の地域活動への参加については、重要性は十分に理解していることが分かるが、地域活動に参加しているものの、役員だからという理由や義務感により、積極的に参加できていないことが課題としてあげられる。また、自分の子供に対しては地域活動に参加させたいと考えており、子供の地域活動については保護者の理解は得られていると言えるのではないだろうか。自由記述の回答では地域活動について様々な多くの意見などをいただき、地域活動に対しての保護者の興味・関心の高さをうかがい知ることができた。回答結果の分析により、より深く現状と意識を把握することができると思われる。

その他の詳細な調査結果については、掲載のデータを参照いただきたい。

## 『先進地研修視察』

研修視察では、様々な角度から研修テーマについて向き合うため、ジュニア・リーダー活動の先進地である利府町（教育委員会生涯学習課）、学校教育の中で地域活動に取り組んでいる向洋中学校（七ヶ浜町）、ジュニア・リーダー以外で青少年の地域活動を実施している仙台市若林区中央市民センターに訪問した。

それぞれの視察先で、特色のある活動や事例に触れ、我々が普段から深く関わっているジュニア・リーダーはもちろんのこと、学校教育の中で地域活動を推進するためにも学校との連携体制を深めていくこと、子ども会活動のほかにも身近な地域でボランティア活動を取り入れることなど、多方面での活動が青少年層にとっては貴重な体験となり、やりがいや楽しさなど魅力ある地域活動の創出につながると言える。今回の研修視察において、青少年層が地域活動に関わる範囲の広さを感じ、今後の研修のポイントになる大切な要素を得ることができた。

今年度は上記2つの取り組みを柱として研修テーマと向き合い、先進地の事例や、青少年層とその保護者の現状を把握するとともに、地域活動に対しての意識、そして自由記述などから生の声を知ることができた。いずれも今後の我々が研修を進める上で貴重な情報であり、課題解決の糸口となるものである。

時代とともに変化していく環境に合わせ、地域活動の在り方も変わっていく。我々も常に変化する環境や住民のニーズなどを把握しながら、地域課題をとらえた事業展開をしていくことが必要である。

今年度学んだことを次年度に生かし、意識調査の詳細な分析や考察などにより、課題解決の方策や今後の方向性を探り、青少年層の地域活動参画のための施策の充実を図ることができるよう研修を進めていきたい。

お わ り に

# おわりに

社会教育主事を拝命してからまだ5年目ですが、とうとう委員長となってしまいました。研修委員会を、きちんとできるか不安でしたが、それでも、社会教育に熱くパワーあふれる研修委員の皆さんが静かに声を出し、そして語っていることが日々あったおかげで、今回の研修委員会が無事終えることに感謝いたします。

今回の研修では、今年度、次年度に社会教育主事資格取得を目指す職員が、社会教育主事講習に向けて経験を踏まえて研修委員会に参加するフレッシュな顔ぶれとなりました。

毎年、決定するのに難航する研修テーマですが、今回は、第1回目の研修委員会で決定しました。候補としては「少年教育」「地域づくりと生涯学習」「青年教育」なども出されましたが、賛成多数で「少年教育（地域活動・ボランティア活動）」に決定されました。そして、4年ぶりに意識調査を行うことも即決し、第2回の研修委員会では、2カ年にわたり研修を行う構想となりました。

今回の意識調査の結果を踏まえて、何を探るのか。研修が進むにつれ、このテーマが幅広く問題が見えてくると、意識調査を組み立てるまでの日程が不足し、臨時の研修会を開催する運びとなり、あいにくの大型で強い台風が過ぎ去った影響でその対応に追われながらの臨時会に参集した形となりました。

しかし、意識調査が完成するまで、雨にも風にも負けず、深夜の業務にも弱音を吐かず、みんなで声をだしながら、眠気に負けない勢いで取り組めたことが後半の研修委員会を進めるうえで大いに役立てる結果となりました。

今回の報告書で、地域活動に対する子供と保護者の意識の一端が見えたのではないかと思います。次年度の研修に今回の意識調査が繋がればと思います。

最後になりましたが、普段の業務のほかに熱心に研修を行った今年度の研修委員に敬意を表し、アドバイスしていただいた研究協議会会員の皆様、ご協力をいただいた関係各位に熱く厚く御礼申し上げます、おわりの言葉といたします。

本当にありがとうございました。

平成30年3月

平成29年度 大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会

研修委員長 七ヶ宿町社会教育主事 小 掠 政 光

## 【大河原地区社会教育主事研究協議会会員】

白石市社会教育主事	*小野 輝彦	松本 志畝	
角田市社会教育主事	*齋藤 史織		
蔵王町社会教育主事	佐藤 洋一	上原 直美	*梶原 一貴
七ヶ宿町社会教育主事	◎小掠 政光		
大河原町社会教育主事	八島 良隆	*石河 千宙	
村田町社会教育主事	☆鎌田 浩孝	○岡本 健志	
柴田町社会教育主事	齋藤 良美	亀井 和招	高橋 秀之 木村 正人
	菊地 駿	*渡辺 光	
川崎町社会教育主事	*佐藤伸一郎		
丸森町社会教育主事	齋藤 公男	*荒井 優作	
仙南広域社会教育主事	◇黒澤 良		
大河原教育事務所	石河 秀一	*三浦 良人	

☆協議会会長  
◇協議会副会長  
◎研修委員長  
○研修副委員長  
\*研修委員

## 【平成29年度 研修委員】



角田市 齋藤 史織	村田町 岡本 健志	研修副委員長 白石市 小野 輝彦	柴田町 渡辺 光	大河原町 石河 千宙	蔵王町 梶原 一貴	丸森町 荒井 優作
教育事務所 三浦 良人	七ヶ宿町 小掠 政光	研修委員長 村田町 鎌田 浩孝	研究協議会長 仙南広域 黒澤 良	研究協議会副会長 川崎町 佐藤伸一郎		

---

### 研修報告書 第44号

## 元気な地域づくりをめざして ～青少年の地域活動に関する意識調査～

平成30年3月31日発行  
編集／大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会  
発行／大河原地区社会教育主事研究協議会  
印刷／株式会社 津田印刷

## 研修委員会のあゆみ【これまでの研修報告書一覧】

No	年度	タイトル	研修代表者		
1	S48	宮城県における父母教師会活動に関する実態 ー調査報告書ー	県教育部長会編, 社会教育主事担当		
2	S49	仙南地域における母親の幼児教育に関する実態 ～3・4歳児を第一子に持つ母親～ 調査報告書	研修班長	白石市 白石市	太齋 享 伏見 光龍
3	S50	乳幼児教育の学習内容の研究 ～学習計画立案のために～	研修班長	白石市	伏見 光龍
4	S51	文化財保護行政をすすめるために	研修班長	丸森町	阿部 義郎
5	S52	生涯教育を推進するために	研修班長	川崎町	高山 恵弘
6	S53 S54	大河原教育事務所管内社会教育30年のあゆみ ～住民のところに灯をともして～	研修班長	角田市 七ヶ宿町	咲間 庄三 根元 邦美
7	S55	学習プログラムの立案(婦人学級・高齢者教室・家庭教育学級)	研修班長	七ヶ宿町	根元 邦美
8	S56	青少年及び親の意識 調査報告書	研修班長	柴田町	澁谷 孝之
9	S57	社会教育推進上の諸問題と社会教育主事の果たす役割 ～教育委員会と公民館のあり方を中心として～	研修班長	角田市	齋藤 久
10	S58	社会教育における学習内容を充実させるための工夫 ～視聴覚教材の効果的な活用をとおして～	研修班長	川崎町	大宮 昭
11	S59	少年教育の充実をめざして ～管内における現状と課題～	研修班長	白石市	佐藤 重仁
12	S60	青年教育の充実をめざして・I =青年活動の実態=	研修班長	丸森町	鈴木 悦郎
13	S61	青年教育の充実をめざして・II 「青年の生活意識と余暇活動についての調査」報告書	研修班長	村田町	高橋 徳夫
14	S62	青年教育の充実をめざして・III ー青年教育事業の進め方を考えるー	研修班長	角田市	大友 喜助
15	S63	スポーツ人口の拡大を図る一方策 高齢者向けニュースポーツの開発を通して	研修班長	大河原町	佐々木寿信
16	H元	スポーツ人口の拡大を図る一方策II 高齢者向けニュースポーツの普及を通して	研修班長	角田市	太田 文夫
17	H2	大河原教育事務所管内社会教育40年のあゆみ 新しい学習社会への架け橋	研修委員長	丸森町	岡崎 勝志
18	H3	生涯学習の鼓動 青年・家庭・高齢者教育の充実をめざして	研修委員長	村田町	高橋 定光
19	H4	生涯学習の鼓動part2 成人・少年・婦人教育の充実をめざして	研修委員長	大河原町	尾形 彰
20	H5	学校週5日制と社会教育のあり方	研修委員長	川崎町	小林 志郎
21	H6	青年教育の充実をめざして・IV ー昭和61年度調査結果との比較・考察を通してー	研修委員長	蔵王町	日下 朝男
22	H7	生涯学習のまちづくりをめざして 生涯学習推進の現状と課題	研修委員長	村田町	山家 孝弘
23	H8	生涯学習の課題と展望 学社連携をめざして	研修委員長	白石市	小野 輝彦
24	H9	生涯学習の課題と展望 学社連携から学社融合へ	研修委員長	村田町	山家 孝弘
25	H10	生涯学習の課題と展望 よりよい公民館活動をめざして	研修委員長	蔵王町	砂金 毅
26	H11	生涯学習の課題と展望 よりよい公民館活動をめざしてII ～公民館入門一つどう・まなぶ・つながる～	研修委員長	大河原町	八島 良隆
27	H12	大河原教育事務所管内社会教育50年のあゆみ 新世紀・きえない虹をおいかけて	研修委員長	白石市	村上 忠敏
28	H13	学社融合の課題と展望 総合的な学習の時間における社会教育のアプローチ	研修委員長	七ヶ宿町	伊藤 貴子
29	H14	学社融合の課題と展望 学校教育と社会教育の協働をめざして	研修委員長	丸森町	菊地 浩二
30	H15	学社融合へのアプローチ 知って得する！文化財・その活用法	研修委員長	丸森町	伊藤 博道

## 研修委員会のあゆみ【これまでの研修報告書一覧】

No	年度	タ イ ト ル	研 修 代 表 者		
			研修委員長	所在地	氏名
31	H16	ヤング・エボリューション ～青年の意識調査をとおして、今の青年たちを考える～	研修委員長	大河原町	小野 宏
32	H17	ヤング・エボリューションⅡ ～青年教育の活性化をめざして～	研修委員長	村田町	鎌田 浩孝
33	H18	動き出した次世代育成支援 ～これからの子育て支援の在り方を考える～	研修委員長	七ヶ宿町	高橋慎太郎
34	H19	時代を映してきた視聴覚教育 ～使ってみよう自作視聴覚教材～	研修委員長	角田市	八島 利美
35	H20	がんばってます！ジュニア・リーダー ～過去 現在 そして未来へ～	研修委員長	川崎町	村上 透
36	H21	生涯スポーツの振興をめざして ～総合型地域スポーツクラブの可能性をさぐる～	研修委員長	柴田町	大川原真一
37	H22	生涯スポーツの振興をめざして vol.Ⅱ ～仙南型総合スポーツクラブへのアプローチ～	研修委員長	白石市	小室 徹彦
38	H23	大河原教育事務所管内社会教育60年のあゆみ ～変わり続ける時代を生きる～	研修委員長	角田市	大内 克典
39	H24	協働教育推進へのアプローチ ～各市町の実践から見えたもの～	研修委員長	川崎町	富田 丈靖
40	H25	これからの成人・高齢者教育を考える ～地域活動と学習に関する意識調査～	研修委員長	柴田町	加藤 栄一
41	H26	これからの成人・高齢者教育を考えるⅡ ～住民とともに豊かな学びをめざして～	研修委員長	大河原町	伊藤 敏之
42	H27	子育て・家庭教育支援の充実をめざして ～手と手をつなぐみんなのチカラ～	研修委員長	柴田町	木村 正人
43	H28	未来に伝えよう！地域の文化財 ～社会教育的視点からのアプローチ～	研修委員長	川崎町	佐藤伸一郎
44	H29	元気な地域づくりをめざして ～青少年の地域活動に関する意識調査～	研修委員長	七ヶ宿町	小掠 政光